特定非営利活動法人 よこはま里山研究所
第 24 期（2023 年 7 月～2024 年 6 月）通常総会
議案書

・第 1 号議案　第 23 期（2022 年 7 月～2023 年 6 月）事業報告
・第 2 号議案　第 23 期（2022 年 7 月～2023 年 6 月）決算報告
・第 3 号議案　第 24 期（2023 年 7 月～2024 年 6 月）事業計画
・第 4 号議案　第 24 期（2023 年 7 月～2024 年 6 月）予算
・第 5 号議案　役員改選

日時：2023 年 8 月 19 日（土）17:00～18:30

場所：はまどま（横浜市南区宿町 2-40-119）

第１号議案　第 23 期事業報告（2022 年 7 月～2023 年 6 月）

第 23 期もコロナ禍の影響は残ったが、全主催事業への参加者数はのべ 2,668 名と過去最高を記録した（第 21 期 2,270 名→第 22 期 2,459 名）。この要因としては、「森と畑と音楽と」（244 名→445 名）と「トンボとり大作戦」（407 名→525 名）の大幅増が強く影響している。コロナ禍に身近な自然を求めるニーズが強まったと言われているが、一時的な動きなのかどうか今後の動向を注視したい。

「はまどま」に関しては、2020 年 8 月からコーディネーターが入り、「街なかの里山の入口」として利用しやすい環境づくりに向けた情報整理を進めてきた。これまではコロナ禍のために新たな人を巻き込んだり、新しい企画を立ち上げたりすることが難しかったが、2023 年 6 月からは 2 代目のコーディネーターが入り、「はまどま」の利用を促進しながら担い手づくりをすすめていく。

収支については、受託事業収入が堅調なことから 9 期連続の黒字となった。今期も「もったいないから竹細工」の参加者が多数入会したこと、よこはま夢ファンドを通して寄付を集めて助成金として活用できていることも、財務状況の安定化に役立っている。一方、運営メンバーの流動性が低く、高齢化が進んでいることから、財務基盤が確かなうちに、将来の環境・社会・経済状況の変化を見通し、計画性を持って「里山とかかわる暮らし」と「里山をいかす仕事づくり」をすすめる必要がある。

自主事業

里山（樹林地や農地等）の保全・活用、里山と人をつなぐ活動

１．ヤマ事業

１）NORA の山仕事

川井特別緑地保全地区（旭区下川井町）において、「森の中で憩える空間」づくりを継続的におこなっている。第 23 期は、間伐材や廃材の運材など林内の整備を進めるとともに、大型動力機械の収納庫を新設し、以前から活用している物置の利便性を高めることができた。また、2023 年 4 月からは、保全管理計画の見直しに向けた準備に着手し、4 月・5 月に現況確認を実施した。

毎月第 2・第 4 日曜日の定例活動への参加者数は、雨天中止 2 回やコロナ禍の影響を受け、のべ 307 名（昨期 393 名）となった。モリダスとの共催事業によるステップアップ研修には、3 期生 4 名が最終審査を通過できたので、4 期生の参加も期待したい。「やま守り編」では、ハーブ花壇を維持することで苗場の草取りを促進でき、参加者数ものべ 45 名（昨期 75 名）を募ることができた。

実施日	活動内容	参加者	スタッフ
7/10（日）	製材、機械除草、板材加工、皮むき、苗場の草取り	13	1
7/24（日）	ツル外し、製材、人力除草、資材加工、機械除草	18	1
8/14（日）	廃材の集積、製材、機械除草、人力除草	11	1
8/28（日）	製材、機械除草、人力除草（苗場）、廃材玉切り	12	1
9/11（日）	機械除草（林内）、人力除草（苗場）、ステップアップ研修	14	1
9/25（日）	製材、機械除草（林外通路）、人力除草（苗場）	10	1
10/9（日）	製材、機械除草、廃材玉切り、人力除草、、ホダ木本ぶせ	11	1
10/23（日）	製材、機械除草、人力除草、研修材移動	13	1
11/13（日）	欠頂木の除伐、間伐対象の選木、流入土の除去	18	1
11/27（日）	欠頂木の除伐、人力除草（タラの芽周辺）	11	1

12/11（日）	研修の予習・復習、薪割り、皮むき、玉切り	12	1
12/25（日）	欠頂木の除伐、運材、機材整備、物置の大掃除	14	1
1/8（日）	欠頂木の除伐、廃材整理、運材	10	1
1/22（日）	玉切り、薪割り、研修資材の伐り出し、欠頂木の除伐、掛かり木処理、不法投棄ゴミ撤去	11	1
2/12（日）	欠頂木・掛かり木の除伐、チップの敷き均し、廃材の薪割り、作業台の補修	12	1
2/26（日）	欠頂木・掛かり木の除伐、薪割り、玉切り、運材	11	1
3/12（日）	欠頂木・掛かり木の除伐、薪割り、玉切り、運材	12	1
3/26（日）	雨天中止	-	-
4/9（日）	保全計画づくり、製材、運材、皮むき、ウッドワーク、ステップアップ研修	11	1
4/23（日）	製材、資材庫整理・移動、皮むき、ウッドワーク	9	1
5/14（日）	保全計画づくり、収納庫補修、腐食材玉切り	20	1
5/28（日）	遊歩道整備、収納庫補修、資材置き場調整、機械除草、製材、材の伐り出し	17	1
6/11（日）	雨天中止	-	-
6/25（日）	製材、人力除草（ブルーベリー周辺・苗場奥斜面地）	15	1
		285	22

【やま守り編】

実施日	活動内容	参加者	スタッフ
7/23（土）	苗場植栽管理	1	1
8/20（土）	エントランス滑り止め養生	0	1
9/4（日）	チェーンソー目立て、人力除草、資材置き場整理	0	1
9/17（土）	梅の剪定、苗場植栽管理	1	1
12/14（水）	苗場の植栽管理	0	1
1/9（月）	廃材処理	5	1
1/29（日）	ウッドワーク講習	0	1
2/18（土）	苗場の植栽管理	0	1
4/2（日）	筍の駆除	0	1
4/4（火）	筍の駆除、薪割り	7	1
4/12（水）	薪割り機搬出	1	1
5/4（木祝）	収納庫設営、テーブル周りの修繕、苗木の移植	6	1
5/5（金祝）	ウッドワーク	10	1
6/17（土）	苗場の植栽管理	0	1
		31	14

２）竹を活かす山仕事

手入れが行き届かなくなった竹林は拡大し、農地や生活環境を侵食するなど、里山の景観に大きな影響を及ぼしている。竹林を手入れすることで畑を守り、里山生態系のバランスを保つために、原則月 1 回、中井町でお世話になっている農家とその親戚が所有する民有地で竹林を整備した。

第 23 期も「もったいないから竹細工」の事業収入によって運営費用を捻出した。定例メンバーも、少しずつではあるがリピーターの定着を確認できた。第 23 期の参加者数は、のべ 88 名（昨期 86 名）であった。なお、年々酷暑日が前倒しされてきているために、7 月の活動を休みにするか検討中である。

実施日	活動内容	参加者	スタッフ
7/17（日）	材の伐り出し、竹林整備	7	1
10/16（日）	材の伐り出し、竹林整備	6	1
11/20（日）	材の伐り出し、竹林整備　※午後から雨予報のため昼食後解散	6	1
12/18（日）	材の伐り出し、竹林整備	9	1
1/15（日）	材の伐り出し、竹林整備	9	1
2/19（日）	材の伐り出し、竹林整備	13	1
3/19（日）	材の伐り出し、竹林整備	6	1
4/16（日）	材の伐り出し、竹林整備、新たな竹林の下見	9	1
5/21（日）	材の伐り出し、竹林整備	8	1
6/18（日）	材の伐り出し、竹林整備	5	1
		78	10

３）よこはま里山レンジャーズ（連携：認定 NPO 法人自然環境復元協会（NAREC））

本事業は、里山保全活動を始めようとする主として若い世代と、活動支援を必要としている既存の活動団体とをつなぐマッチングプログラムである。NAREC の「レンジャーズプロジェクト」に登録したボランティア「レンジャー」（4733 名、2023 年 3 月 31 日時点）に対し、受入団体と活動内容が調整された出動要請メールが発信され、レンジャーはそのメールに返信するだけで希望する活動に参加できる。活動当日は 10～20 名程度のレンジャーが集まり、レンジャーズリーダーの誘導のもと受入団体の活動に参加するため、一人で参加する心細さがない。

第 23 期は、市内 6 か所のフィールドにおいて 7 回の活動を実施し、参加者数は 68 名（昨期 6 回実施、79 名参加）であった。

回	実施日	実施場所	受入団体	参加者
1	10/29（土）	瀬上市民の森	瀬上さとやまもりの会	6
2	11/6（日）	恩田の谷戸	恩田の谷戸ファンクラブ	11
3	12/4（日）	桜ヶ丘緑地	桜ヶ丘・水辺のある森再生プロジェクト	10
4	2/12（日）	瀬上市民の森	瀬上さとやまもりの会	13
5	3/4（土）	谷矢部池公園	わかぎの会、谷矢部池公園愛護会	14
6	5/28（日）	川井緑地	NPO 法人よこはま里山研究所	5
7	6/10（土）	元町公園プール	横浜にとんぼを育てる会	9
				68

4）都市の里山資源の活用推進事業（令和 4 年度「緑の募金」公募事業）

NORA が目指す「かつての里山のように暮らしと里山との距離を近づける」ことによる里山再生を目標に、川井緑地の森林整備に伴って産出する里山資源をグリーンウッドワーク（生木を手道具で削って作る木工）による活用の推進を図った。国土緑化推進機構「緑の募金」の助成を得て、第 23 期は指導者養成講座を 5 回、一般向けグリーウッドワークショップを 6 回それぞれ実施し、参加者数は合わせて 83 名であった。

【指導者養成講座】

回	実施日	内容	参加者
1	11/5（土）	道具の種類と使い方	9
2	12/4（日）	へラづくり、ナイフワーク	6
3	1/29（日）	ナイフワークと斧の使い方習得、スプーン作り	6
4	4/9（日）	はつり台、ニマづくり	6
5	5/5（日）	スプーン作り、全体ふり返り	7
			34

【グリーンウッドワークショップ】

回	実施日	内容	参加者
1	1/7（土）	グリーンウッドワークの基礎、道具の使い方、へらづくり実習（講師：小野敦さん）	9
2	1/29（日）	ナイフワークと斧の使い方習得、スプーン作り	7
3	2/26（日）	スプーン、ニマづくり	6
4	4/9（日）	はつり台、ニマづくり	7
5	4/23（日）	スプーン、ニマづくり	10
6	6/3（土）	活動ふり返り、スプーンづくり（講師：小野敦さん）	10
			49

5）山道具の安全使用（提携：株式会社シンコー）

株式会社シンコー社とサブ店契約を締結（2011 年 6 月）して、チェーンソーメーカー（スチール STIHL）の二次代理店業務を担い、環境に配慮しつつ安全性を高めた緑地保全活動用の機材使用の啓発をすすめている。第 23 期も新型コロナウィルス感染症拡大防止のため、各種の活動が自粛となり販売実績は僅少となった（売上 8,000 円、粗利益 800 円）。

6）まちの近くで里山をいかすシゴトづくり｜環境 NPO 運営スタッフ懇談会

環境 NPO の運営を担うスタッフが個人の意志から集い、自団体の経験をオープンにして学び合う懇談会を 2020 年 8 月に立ち上げた。東京・神奈川・大阪・福岡に事務所を持つ環境 NPO から 12 名が原則毎月第 4 水曜日夕方にリモートで集い、バックオフィスの DX 化、プロボノ、会員・顧客管理、個人情報保護、インボイス対応、安全管理などについて経験を共有した。

7）安全で楽しい森林の保全・利用を指導できるリーダー養成事業

（令和 4 年度「緑と水の森林ファンド」助成、主催：モリダス）

モリダスは、横浜・多摩地域で森林づくり・里山保全活動を実践してきた市民が、適切なメソッドを持って人材育成を図る必要性を感じ、2018 年 3 月に設立した任意団体である。NORA は、モリダス主催のリーダー養成事業を共催するかたちで緊密に連携を図っている。

第 23 期は、森づくりレベルアップ研修の 3 期生を step1 に 7 名集め、4 名が step3 まで進んだ。また、1 期生と 2 期生の step3 の審査をおこない、それぞれ 2 名ずつが合格した。受講生の参加が減っているので、研修の内容・開催方法について再考したい。

安全管理に関しては、林業のプロを相手に技術指導している専門家を招いた講演会と、現場で直面している課題や困りごとを共有するためのフォーラムを開催した。また、生態系管理については、生物多様性を豊かにする里山づくりをテーマに現場研修を開催した。ともに定員いっぱいの参加者を集め、ニーズがあることを確認できたので、今後はこれらを総合的に学ぶプログラムの体系化を進めたい。

実施日	実施場所	タイトル	参加者	スタッフ
9/10（土） 9/11（日）	川井緑地	森づくり活動レベルアップ研修 step1 ～手道具の扱い方（講師：志賀壮史さん）	7	3
10/30（日） 12/18（日）	川井緑地	森づくり活動レベルアップ研修 sttep3 ～手道具とロープで安全に木を倒す 1 期生審査（審査員：塚本秀貴さん）	3	3
11/3（木祝） 11/19（土） 12/17（土）	にいはる里山交流センター 川井緑地	森づくり活動レベルアップ研修 Step2～ロープワークと牽引システム（講師：島村雅英）	4	2
11/19（土）	川井緑地	森づくり活動レベルアップ研修 sttep3 2 期生審査（審査員：高澤愛さん）	2	1
2/25（土） 3/4（土） 4/9（土）	川井緑地	森づくり活動レベルアップ研修 Step2 ～折れ曲がり線とツル（講師：高澤愛さん）	4	2
3/21（火祝）	技能文化会館	講演会「森林ボランティアの安全管理は甘すぎないか？」（講師：水野雅夫さん）	49	5
6/3（日）	長池公園	座学と実習で学ぶ 1 日研修「生物多様性を豊かにする里山づくり」（講師：久保田繁男さん）	15	3
6/16（金） ふりかえり 6/28（水）	オンライン	フォーラム「現場の声をもとに考える里山・森林ボランティアの安全管理」（トトロのふるさと基金、座間谷戸山公園、多摩グリーンボランティア森木会、志賀壮史さん）	51	4
			135	23

２．ノラ事業

１）森と畑と音楽と

丹沢東麗に位置する厚木市・伊勢原市の里山における活動で、2014 年にスタートし第 23 期で 9 年目を迎えた。活動の目的は農地管理が第一だが、参加者を増やすために「自然の中での様々な活動を通じて幅広い年齢層・異分野の人々が集い、有機的に結びつく空間の創造」を目標として、この土地に多くの人が関心を持ち、活動に来ることが楽しいと思える活動をおこない、持続するシステムをつくろうと考えている。

第 23 期の特徴は、3 点挙げられる。

畑：乗用型耕運機の故障のため、手作業による作付けが中心となった。このため、維持管理に追われ、畑でのイベント等の開催を行わなかった。

水田：米づくりを始めて 7 年目を迎えた。20 期から導入した紙マルチを今期も導入した。新型コロナウィルスの 5 類移行に伴い、田植えイベントの募集人数の拡大、ドローンによる撮影など積極的に取り組んだ。また、受け入れ体制を整えるため、複数日に分散して実施していた田植えを 1 日に集約した。

イベント：木の葉をモチーフとしたヒノキのキーホルダー作りなどクラフトの実施等、木に触れる機会があった。また、サクラの製材で出たチップを利用したスモークを含め、BBQ イベントを開催した。その他、鉱物や化石に触れる体験など、イベント内容に広がりが見られた。野菜収穫体験については実施を見送った。

第 23 期の活動日は計 45 日（16 期 77 日→17 期 72 日→18 期 63 日→19 期 37 日→20 期 56 日→21 期 41 日→22 期 27 日）で、22 期と比べ 18 日増え、およそ週 1 日のペースで活動をおこなった。ここ数年スタッフの疲弊を考慮して効率的に作業をおこなってきたが、イベント日数の増加によりその準備等の負担が大きくなった。参加者ののべ人数は 445 名（16 期 494 名→17 期 367 名→18 期 281 名→19 期 258 名→20 期 326 名→21 期 246 名→22 期 244 名）となっており、22 期と比較し、大幅な参加者数の増加となった。これは、水田作業の草取りをイベント化したこと、収穫祭や BBQ 等人の集まるイベントが再開したことによると考えられる。イベントの開催など少しずつ日常が戻るなかで、資源のさらなる有効活用を模索したい。

実施日		回	活動内容	参加数
7 月	3（日）23（土）24（日）	3	ニンニク収穫、イチゴ収穫、草刈り、水田草刈り、畑草刈り※田んぼ水見回りは毎日	12
8 月	7（日）20（土）26（土）28（日）	4	畑草刈り、耕耘、田んぼ点検、キーホルダー作り、水田草刈り、水田草取りイベント参加者 43 人（大人 23 人、こども 20 人）	49
9 月	4（日）11（土）25（日）	3	かかし設置、水田草刈り、畑の草刈り	10
10 月	10（月）11（火）16（日）23（日）29（土）	5	栗拾い、柿もぎ、稲刈り準備、水田草刈り、稲刈り参加者 9 人（大人 4 人、こども 5 人）、かかし撤収、籾摺り、稲刈りイベント（稲刈り、ハザカケ、脱穀）参加者 81 名（大人 37 名、中高大 8 人、こども 36 名）（昨期は 2 日間で 72 名）	107
11 月	12（土）19（土）	2	籾摺り、畑耕耘、草刈り	4
12 月	3（土）11（日）17（土）	3	畑耕耘、水田補修、収穫祭イベント（脱穀、籾摺り、精米、調理等）参加者 76 人（大人 32 人、中高大 14 人、子ども 30 人）	80
1 月	7（土）28（土）	2	キーホルダー作り、ワラ・ハザカケ棹撤収	5
2 月	4（土）18（土）19（日）23（木）	4	草刈り、畑整備、耕耘、種まき、ネギ苗植え、遊び場作り（ボルダリング壁）、イベント出展（ポン菓子）	11
3 月	5（日）14（火）19（日）	3	畑の耕耘、樹木の枝伐採、ジャガイモ植え、クラフト材料作り、畑種まき、草刈り、耕耘、鉱物観察・化石発掘体験イベント参加者 6 人（大人 4 人、こども 2 人）	14
4 月	1（土）22（土）23（日）29（土）	4	用水路清掃、水田資材撤去、草刈り、土筆採り、小屋の屋根修理、BBQ	23
5 月	3 日（水）5（金）14（日）20（土）21（日）	5	用水路清掃、畑草刈り、耕耘、畝立て、野菜種まき、水田耕耘、BBQ（ポン菓子・スモーク含む）	40

6 月	3（土）10（土）12（月）16（金）17（土）18（日）24（土）	7	水田草刈り、水の引き込み、代掻き、畑耕耘、紙マルチ準備、稲苗準備、田植え体験イベント 78 人（大人 36 名、中・高・大学生 8 名、こども 34 名）、	90
		27		445

２）城山里山サポーター（東京海上日動火災「Green Gift 地球元気プログラム」、東京ガス「森里海をつなぐプロジェクト」）

<実施期間：2021 年 10 月～2022 年 9 月、2022 年 12 月～2023 年 3 月>

2016 年から東京海上日動火災保険（株）の協賛により、旧城山町（相模原市緑区）で続けてきた親子向け自然体験プログラムは 2 期 6 年間で終了した。しかしその後、東京ガス（株）の「森里海をつなぐプロジェクト」に選ばれ、里山再生活動を継続している。

参加者を集めるイベントを数多く開催しても、地域の里山を守る日常的な活動を担う人は確実に減っている。そこで、人手が足りないときに気軽にお手伝いに行ける関係づくりのために、地域の人と一緒に里山を守るサポーターを募集し、第 23 期末までに 13 名が登録した。今後は、サポーターによる自主的な活動も促しながら、地域外との協働による里山再生のモデルづくりを進めていく。

持続可能な地域コミュニティづくり、暮らしの提案、イベントの企画・運営

３．ムラ事業

１）はまどまプロジェクト

「はまどま」発足後、2023 年 6 月で丸 15 年が経過した。街なかの里山の入り口、里山を暮らしにいかす実践の場として多様な企画を実現してきた。地域の皆さんの暮らしに役立つ場としても、宮宿花 1・2 丁目町内会、蒔田公園愛護会、大岡川アートプロジェクト「光のぷろむなぁど」実行委員会などに参加し、信頼関係を積み重ねてきた。第 23 期もコロナ禍の影響により飲食を伴う活動は今期も大きく制約を受けたが、竹細工では多くの参加者を集めることができた。街なかで里山を体験できる「はまどま」の可能性は大きいと思われるので、この場所の価値を地域の皆さんをはじめ周知していきたい。

（1）NORA 野菜市

毎週火曜日 17～19 時、大和ビル駐車場にて、神奈川県内・生産者限定の野菜市として開催し、2023 年 5 月までに 18 年半継続してきた（2021 年 4 月下旬～9 月は担当者の体調不良にて休止）。日本の食糧自給率は、2022 年度のカロリーベース食糧自給率も 38%で前年より下落しており、生産額ベースの 58%は過去最低である。政府が掲げる 2030 年度達成目標のカロリーベース 45%、生産額ベース 75%には遠く及ばないし、向上する見通しもない。地球規模の水資源の枯渇、気候変動の激甚化に、ロシアのウクライナ侵攻も続いたまま、世界の食糧生産は不安定化を増し、人口は増え続け、飢餓人口も 8 億人を超えるという。国内では基幹的農業従事者の平均年齢は 70 歳に迫り、輸入に頼る肥料、資材、燃料、そして種子も高騰するなかで、畜産・酪農を中心に離農が急激に進んでいる。「NORA 野菜野菜市」への期待は高まるが、再び担当者の体調不良により 2023 年 6 月から野菜市は休止した。

（2）生産者の心とともに季節を味わう神奈川野菜の食事会

新型コロナウィルスの感染を危惧して開催を見送ってきた。

（3）もったいないから竹細工

里山では手入れされない竹林が生い茂り、邪魔物として扱われている。かつて有用だった竹を生かせ

ないのはもったいないので、竹林整備の際に出てくる竹材を有効に生かすために竹細工を製作している。毎月第 4 土曜日開催の竹かご教室では、講師に指導を受けながら全 10 回で六つ目編みを基本とした竹かご 5 作品をつくる。第 1 水曜・第 2 土曜・第 3 木曜・第 4 月曜日開催の竹細工工房では、竹かごを編むための竹ひごの準備のほか、竹へら・菜箸・パスタフォークなど（カトラリー）、さまざまな食器もつくっている。

第 23 期では、各曜日の参加者が定着し参加者数が安定してきている。その一方でコロナの余波が残り、実施日当日間際のキャンセルが課題となっている。参加者数は、竹かご教室のべ 83 名（昨期 87 名）で、竹細工工房はのべ 630 名（昨期 583 名）、自主練習はのべ 103 名（昨期 124 名）、合計のべ参加者数は 733 名（昨期 707 名）となり、その内の一般会員への入会者数は 93 名（昨期 84 名）だった。

【竹かご教室】

実施日	参加者	スタッフ	実施日	参加者	スタッフ
7/23（土）	5	2	1/28（土）	5	2
8/27（土）	6	2	2/25（土）	3	2
9/24（土）	4	2	3/25（土）	6	1
10/22（土）	6	2	4/22（土）	5	2
11/26（土）	6	2	5/27（土）	2	2
12/24（土）	6	2	6/24（土）	6	2
				60	23

【竹細工工房】

実施日	参加者	スタッフ	実施日	参加者	スタッフ
7/6（水）	10	3	1/4（水）	9	3
7/9（土）	11	3	1/14（土）	11	3
7/21（木）	9	2	1/19（木）	9	3
7/25（月）	11	3	1/23（月）	8	3
8/3（水）	6	3	2/1（水）	15	3
8/13（土）	9	3	2/11（土）	12	3
8/18（木）	9	3	2/16（木）	10	3
8/22（月）	9	3	2/27（月）	11	3
9/7（水）	12	3	3/1（水）	14	3
9/10（土）	8	3	3/11（土）	11	3
9/15（木）	10	3	3/16（木）	9	3
9/26（月）	9	3	3/27（月）	9	3
10/5（水）	14	3	4/5（水）	14	3
10/8（土）	10	3	4/8（土）	13	3
10/20（木）	8	3	4/20（木）	7	3
10/24（月）	11	3	4/24（月）	9	3

11/2（水）	13	3	5/3（水祝）	12	3
11/12（土）	12	3	5/13（土）	11	3
11/17（木）	8	3	5/18（木）	9	3
11/28（月）	8	3	5/22（月）	8	3
12/7（水）	12	3	6/7（水）	11	3
12/10（土）	10	3	6/10（土）	7	3
12/25（木）	10	3	6/15（木）	9	3
12/26（月）	9	3	6/26（月）	11	3
				487	143

【自主練習日】

実施日	参加者	スタッフ	実施日	参加者	スタッフ
7/2（土）	7	2	1/7（土）	7	2
8/6（土）	9	2	2/4（土）	9	2
9/3（土）	11	2	3/4（土）	4	2
10/1（土）	8	2	4/1（土）	3	2
11/5（土）	7	2	5/6（土）	6	2
12/3（土）	4	2	6/3（土）	4	2
				79	24

（4）はぶすぱラボ

第 22 期の後半からハーブ・スパイス研究・実験としての料理作りと試食を主とした活動に切替え、学びを深めている。第 23 期は、世界各国の料理を「はぶすぱ」風にアレンジした創作料理を作りながら知識および技術の向上に努め、のべ 41 名（昨期 58 名）が参加した。

実施日	内　容	参加者	スタッフ
7/3（日）	ソーセージを作ってホットドッグを頬張ろう	3	2
9/4（日）	アフタヌーンティーで優雅なひとときを！	2	2
10/16（日）	旬を楽しむお寿司づくり	3	2
11/6（日）	ふっくら美味しいお好み焼きづくり	2	2
12/4（日）	ライスバーガーに挑戦！	3	2
2/19（日）	美味しいパン作り	2	2
4/23（日）	コク旨スープカレー作り	2	2
5/28（日）	メキシカン第 2 弾	2	2
6/12（日）	美味しいヘルシー 絶品ベトナム料理	4	2
		23	18

（5）はまどまで土間仕事

年 2 回の開催だが、参加者数はともに増えた（22 期 13 名→23 期 17 名）。味噌も梅干しも「自分で作ると美味しい」を今後ももっと伝えていく。

実施日	内　容	参加者	スタッフ
5/20（土）	川口糀店さんと初夏仕込みの手前味噌作り	10	1
6/25（日）	柏木さんの梅で気楽に気軽に梅干しを仕込もう	5	1
		15	2

（6）『食べもの通信』読者会

『食べもの通信』（家庭栄養研究会編集）は、安全な食べものと日本の食文化に根ざした健全な食生活と平和への願いから 1970 年に創刊した月刊誌である。さまざまな情報が溢れる中で、信頼度の高い新しい情報を学び合い、経験や考えを分かち合う場を作りたいと考え、2019 年 11 月から読者会を開始した。2020 年 8 月からコロナ禍に対応してリモートを併用したことで、本誌編集部や岡山・宮崎からも参加者を得られた。第 23 期は茨城県筑波市に転居したメンバーやイタリア・フィレンツェに暮らすメンバーの参加も定着し、各地ならではの情報交換も楽しい。一人で読むよりも、重たい内容、難しい内容の記事でも理解が進みやすくなった。家庭栄養研究会の会員になった担当が、地方運営委員を受けて、定例のリモート拡大運営委員会に参加するなど、活動の幅を拡げている。

回	実施日	内　容	参加者
28	7 /11（月）	夏の冷え対策・現実になった食料危機	7
29	8/8（月）	人工甘味料のリスク・本物の豆腐	7
30	9/12（月）	笑いの力で心も体も行きかえる	7
31	10/10（月）	そば粉一割でもそば？！	6
32	11/14（月）	持続可能な漁業のために。	6
33	12/12（月）	腸内フローラは農薬や食品添加物で壊れる。	8
34	1/9（月）	地元の安心野菜を売る各地の取組み	4
35	2/13（月）	抗生物質漬け輸入肉	7
36	3/13（月）	有機給食が守る子どもの心身と未来	7
37	4/10（月）	除草剤「グリホサート」の危険性	4
38	5/8（月）	電磁波の子どもへの影響と健康被害を考える	4
39	6/12（月）	食料危機に便乗する「フードテック」って何？	6
			73

（7）里山の恵み・伝統文化と出会う上映会（共催：郷土映像ラボラトリー）

民族文化映像研究所に約 130 本ある記録映画を中心とした上映会で、「郷土映像ラボラトリー」（主宰：中川美帆さん）との共催による。2020 年 3 月以降、コロナ禍により休止が続いた。

（8）はまどま諸々

会員が主体的に得意なことを教えたり、興味のあることを参加者と学び合ったりする活動である。

心も体も元気に季節の薬膳食事会（内倉和子会員）

薬膳の前に運動不足解消のために椅子を使ったチェアヨガも同時開催。久しぶりのリアル開催が 1 回のみだったが、第 24 期は季節に合わせて開催していく。

実施日	内　容	参加者	スタッフ
4/15（土）	甘夏寿司、セロリとイカとテンペの炒め物、しんじょ椀、桑茶のミルクプリン、桜花緑茶	2	1
		2	1

２）はまどま改革（横浜市市民活動推進基金（よこはま夢ファンド）助成）

2020 年 8 月から、はまどまコーディネーターを中心に、「街なかの里山の入口」として利用しやすい環境づくりに向けた情報整理を進めてきた。コロナ禍が続き、新たな企画を立ち上げにくいことから、コーディネーターが駐在する時間を設け、郵便物・書類等の整理、報告記事アップ手伝い、室内清掃などをおこなってきた。2023 年 3 月に、コーディネーターとの契約をいったん終了。6 月から新たなコーディネーターと業務契約を結び、従来の業務に加えて会員情報の管理なども担当していく。

３）地域連携

・横浜市南区内の 3 か所のこども食堂に、生産者に無料供与をお願いした作物を提供。生鮮農産物は味や栄養の点で貴重である。こども食堂は、コロナの影響で食堂としては再開できないでいたが、会食型は復活を始めている。テイクアウトの弁当販売、食品支援などのパントリー型は、生活困窮者が増えるなか、必要とされる傾向にある。支援先として金沢区の学生食糧支援活動にも参加している。
・南区子どもの居場所づくり団体ネットワークに参加し、交流会・合同企画への参加をとおして、各団体との連携や、南区や社会福祉協議会事務局とも交流の機会を作れるようになった。
・フォーラム南太田の就労支援プログラムに参加する「ガールズ」との交流は、野菜市を通して 15 年来の積み重ねがある。第 23 期中の共同企画として、生産者から提供された有機栽培茎茶を小分けパックに詰める作業をおこない、保土ケ谷区の子ども食堂も含めて 15 カ所ほどに提供できたほか、市内で茶摘み体験に参加するなど交流を続けた。また、横浜産の木材で作ったお椀やコップの蜜蝋塗り作業に 8 名が参加するなど、若い世代へ NORA の活動を知らせる取組をおこなった。
・10/30（日）、宮宿花 1・2 丁目町内会主催「ハロウィンパーティー」に参加。蒔田公園で受付を済ませた子供たちは町内有志店舗などを回り、町内会が用意したお菓子をもらう。NORA では、少量の農産物セットのプレゼントを加えた。年々参加家族が増え、特にコロナ以後は貴重な町内の催しとなった。2022 年は 250 名の子どもたちが参加した。町内会としても大きな取組みに発展してきたが、「はまどま」を町内の子どもたちや若い世代の親たちに親しんでもらう取り組みである。

４）ネットワーク

（1）まいたエコサロンの会

地域の環境活動拠点として横浜市と構成団体が協働して運営に関わってきた。NORA には「はまどま」があり、まいたエコサロンを使う予定がないことから、2023 年 3 月末をもって退会した。

（2）横浜コミュニティカフェネットワーク（YCCN）

互いのコミュニティカフェを訪れる機会が増えてきた。今期は、それをはまどまに活かしてゆく。

４．ハレ事業

１）設立 20 周年記念事業

（1）プロジェクト紹介動画

プロジェクト毎の魅力、現場の雰囲気、担当者の想いと参加者の声をまとめたプロジェクト紹介動画を公開した。昨期の「はぶすぱラボ」「よこはま里山レンジャーズ」に引き続き、今期は 9 月「はまどまで土間仕事」、10 月「竹を活かす山仕事」、3 月「森と畑と音楽と」、5 月「野菜市でつなぐ農と人」およびインタビュー動画「日本の農産物流に 3 つの提案～神奈川野菜を届けて 36 年三好豊」を公開した。来期は「もったいないから竹細工」の紹介動画を公開予定。活動紹介の場面で活用したほか、これまで曖昧だった各プロジェクトの目的や伝えたいことを明文化する機会となった。

（2）絵本・カルタ制作（国際花と緑の博覧会記念協会「花博自然環境助成」）

都市近郊の里山について、そこにかかわることの楽しさや意義を、普段は自然や里山に関心を抱かない都市生活者を意識して、絵本・カルタを制作した。

絵本は、1960 年代および 2020 年代の横浜北部を題材に『でんえんとし さとやまっ子』（22 ページ）を 100 部印刷し、関係各所に配布をすすめている。カルタは、子どもたちに絵札・読み札を募集したところ 58 作品が集まり、大人分も合わせて『NORA のよこはま里山カルタ（令和 5 年産）』を 50 セット制作した。作品を寄せてくれた子どもたちに提供したほか、南区内の子どもたちが集う施設に寄贈した。

里山の生物-文化の多様性保全に資する普及啓発、情報発信

５．イキモノ事業

１）トンボはどこまで飛ぶかフォーラム

2003 年に活動を開始した当フォーラムは、京浜臨海部において生物多様性に配慮した緑地の質の向上を目的に企業・市民団体・行政・専門家が参加する集まりで、NORA は 2015 年 1 月から参加している。第 23 期は、夏のトンボ調査等に参加したほか、本牧市民公園、根岸森林公園、富岡総合公園、長浜公園において 6 月～10 月にかけて指定管理者が主催する「トンボとり大作戦」の運営を担った。「トンボとり大作戦」への参加者数とマーキングされたトンボの数は下表のとおりである。

調査場所毎の参加者数

調査場所	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	合計
本牧市民公園	16	17	*4	34	60	131
根岸森林公園	30	22	25	*3	31	111
富岡総合公園	29	*4	30	8	32	103
長浜公園	62	71	14	19	14	180
合　計	137	110	69	61	137	525

※6 月は第 22 期、＊はスタッフのみで調査実施

捕獲・マーキングされたトンボの数

6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	合計
13	53	75	133	63	337
3	26	39	0	149	217
18	26	50	130	115	339
16	23	37	116	10	202
50	128	201	379	337	1,095

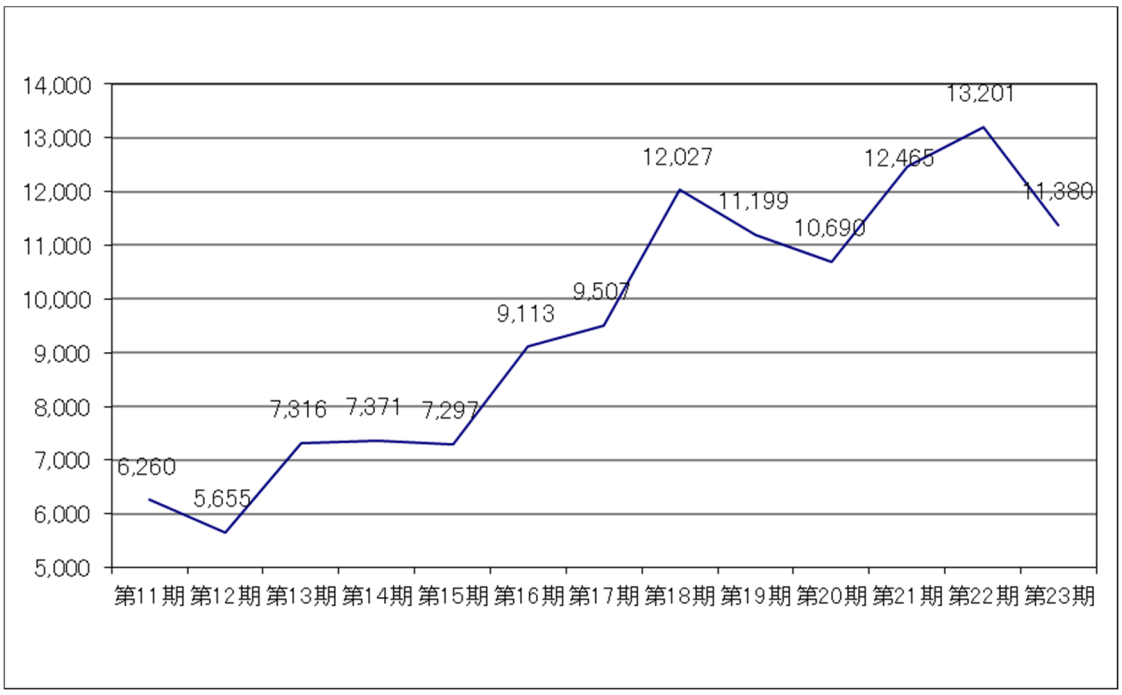
６．広報事業

１）ウェブサイトの更新

第 23 期もイベントの告知・報告記事など情報発信をおこなった。月平均ページビューは 11,380（第 20 期 10,690→第 21 期 12,465→第 22 期 13,201）と、過去最高だった前期と比較して 14%減となった。この要因として、報告記事の投稿が滞りがちであったこと、コロナ禍における自然体験ニーズの高まりが落ち着いたことなどが考えられる。

２）「里山と暮らしをつなぐメールマガジン」配信

原則、毎月 1 日に「里山と暮らしをつなぐメールマガジン」を配信した（第 170～181 号）。第 23 期末の時点で、NORA からブラストメールを利用して配信している数が 2,322、メルマガ発行サービス「まぐまぐ！」からは 244、合計で 2,566 アドレスに配信している。昨期末の配信数 2,827 と比較して 10%近く減少しており、顧客情報を積極的に収集することが求められる。



3）ソーシャルメディアによる情報発信

第 23 期末の SNS のフォロワーは、Facebook1,895（第 20 期 1,528→第 21 期 1,671→第 22 期 1,791）、Twitter580（第 20 期 527→第 21 期 545→第 22 期 577）、Instagram776（第 20 期 74→第 21 期 521→第 22 期 693）となった。また、プロジェクト動画の制作を進めている効果から、YouTube チャンネルの登録数は 372（第 22 期 239）と順調に増えた。今後は、若い世代への情報発信を強化するために、ショート動画、リールなどの活用を進めたい。

4）年間報告書の作成

「2022 年活動報告」（A4、三つ折り）を作成し、会員・会友へ配布した。YouTube での動画公開や団体紹介スライドの作成等の「広報ツール拡充」を中心に自主事業等 1 年間の活動を紙面で報告し、年越し前に年会費振込みを促した。

5）団体紹介スライドの作成（NPO 法人 a-con（NPO コミュニケーション支援機構））

プロボノの方々からご支援いただき、クラウド型デザインツール Canva を用いて、NORA からのメッセージと団体紹介を 15 枚のスライド「Find My Satoyama」にまとめた。自然に関心はあるけれどもきっかけがない、行動に移せないというような町に暮らす人に向けて、自分の里山を探してみませんかとお誘いしながら、「里山とかかわる暮らし」をお手伝いしている NORA の特徴を紹介した。

協働・受託事業

里山に関する調査研究・コンサルティング・人材育成・講師派遣等

1）保育所・小中学校等ビオトープ整備のアドバイザー派遣（横浜市環境創造局みどりアップ推進課）

<実施期間：2022 年 4 月～2023 年 2 月、2023 年 4 月～2024 年 2 月>

2022 年度は、当該事業でビオトープ整備を実施した小学校 15 校に対してフォローアップをおこない、ビオトープの維持管理・活用方法、整備方法等について指導した。また、新規にビオトープを整備した小学校 11 校にのべ 18 回訪問し、ビオトープ整備にかかる計画づくり、整備方法等について助言をおこなった。2023 年度も引き続き、市内小学校等に対してビオトープ整備に関する助言を実施している。

２）長浜公園トンボ池等管理業務（公益財団法人 横浜市緑の協会）

<実施期間：2022 年 4 月～2023 年 3 月、2023 年 4 月～2024 年 3 月>

2022 年度は、長浜公園（横浜市金沢区）のトンボ池、水田等において、市民を対象とした環境啓発、生物の生息空間の保全・創造のためのトンボ池等の日常管理をおこなった。併せて、長浜公園と富岡総合公園でトンボ取り大作戦の運営をおこなった。2023 年度は、引き続き、トンボ池や水田の適正管理、啓発事業として田植え体験や小学校の授業でのヤゴ救出の実施、「トンボとり大作戦」をとおした生き物調査などをおこなっている。

３）野島公園ビオトープ水路環境調査（公益財団法人 横浜市緑の協会）

<実施期間：2022 年 4 月～2023 年 3 月、2023 年 4 月～2024 年 3 月>

2022 年度は、観音崎博物館が実施する水生生物・植生調査と連携したビオトープ池の環境管理を実施した。2023 年度は、引き続きビオトープ池の管理を実施する。

４）本牧市民公園、根岸森林公園トンボとり大作戦開催業務（横浜植木株式会社、公益財団法人 横浜市緑の協会）

<実施期間：2022 年 6 月～2022 年 10 月>

子どもたちにトンボとりを体験してもらい、くらしと街中での生きものとのつながりを認識してもらうため、本牧市民公園と根岸森林公園で毎月 1 回トンボとり大作戦の運営を実施する。

５）森づくりボランティア派遣及び体験事業業務（横浜市環境創造局みどりアップ推進課）

<実施期間：2022 年 4 月～2023 年 3 月、2023 年 4 月～2024 年 3 月>

森を育む人材育成事業に登録された森づくりボランティアの活動推進と既存の活動団体の活性化を目的に、森づくり活動団体の活動へ森づくりボランティアが参加する「森づくり体験会」の企画、運営、参加者指導等の業務を実施した。

【初級編】

回	開催日	開催場所	受入団体	参加者
1	10/29（土）	上矢部ふれあいの樹林	上矢部ふれあいの樹林愛護会	11
2	12/3（土）	池辺市民の森	池辺市民の森愛護会	8
3	1/14（土）	宮沢ふれあい樹林	宮沢の森愛護会	6
4	4/29（土）	鯉ヶ久保ふれあいの樹林	鯉ヶ久保ふれあいの樹林愛護会	14
5	5/27（土）	池辺市民の森	池辺市民の森愛護会	13

【実践編】

回	開催日	開催場所	受入団体	参加者
1	10/30（日）	新治市民の森	新治市民の森愛護会	7
2	11/6（日）	新治市民の森	新治市民の森愛護会	15

【継続編】

回	開催日	開催場所	受入団体	参加者
1	10/15（土）	上川井市民の森	なし	7
2	12/10（土）	上川井市民の森	なし	6
3	1/21（土）	上川井市民の森	なし	8

【実践編】

回	開催日	開催場所	受入団体	参加者
1	5/14（日）	谷戸矢部池公園	谷矢部池公園愛護会・わかぎの会	11
2	6/24（土）	新治の谷戸田	新治里山「わ」を広げる会	12

６）里地里山入門講座企画実施業務（横浜市環境創造局農政推進課）

<実施期間：2022 年 6 月～2023 年 2 月>

市民参加による寺家ふるさと村の農景観保全を進めるための新しい担い手の人材育成を目的とした里地里山入門講座の企画運営並びに、寺家ふるさと村の農景観保全に必要な野外活動を推進するために、総合案内所である四季の家に求められる設備、機能についての検討をおこなった。

	実施日	内容	参加者
1	9/23（金祝）	寺家ふるさと村の里地里山を知る（ガイダンス）	16
2	10/16（日）	寺家ふるさと村の農を感じる（稲刈り体験）	9
3	11/27（日）	寺家ふるさと村の森を感じる（下草刈り・除伐等里山保全体験）	12
4	12/24（土）	里山の恵みを活用する（リースづくりと米の試食）	14
			51

７）森づくり安全管理研修・入門講座 企画実施業務（横浜市環境活動支援センター）

<実施期間：2022 年 8 月～2022 年 12 月>

市民と行政の協働による森づくりを推進するため、下記のとおり、森づくり活動団体が必ず受講しなければならない安全管理研修と、講義・森歩き・実技から成る入門講座の企画と運営を実施した。

・安全管理研修　10/１（土）、10/21（金）、11/13（日）

・入門講座（大学生対象）　9/6（火）、９/13（火）、10/30（日）

　入門講座（一般対象）　10/10（月祝）、11/６（日）

委員・講師派遣等

１）委員

〇松村正治

・横浜市市民協働推進委員会市民活動運営支援事業部会長

・横浜市地域まちづくり推進委員会ヨコハマ市民まち普請事業部会専門委員

・公益社団法人国土緑化推進機構「国民参加の森林づくり総合推進事業」検討委員

〇吉武美保子

・神奈川県自然環境保全審議会自然保護部会

・横浜市市民協働推進センター事業部会　※新治里山「わ」を広げる会の肩書で

２）講師・執筆

〇島村雅英

・横浜市環境創造局出前講座「ビオトープで小さな生態系を感じてみよう」を 14 回、のべ 697 名の児童に対して開催した。

回	実施日	学校名	区	対象	人数
1	7/4（月）	上郷小学校	栄区	4 年	90
2	7/14（木）	羽沢小学校	神奈川区	4 年	34
3	7/15（金）	上白根小学校	緑区	4 年	93
4	9/15（木）	杉田小学校	磯子区	5 年	30

5	9/26（月）	鶴ヶ峯小学校	旭区	4 年	105
6	9/29（木）	中村小学校	南区	4 年	25
7	10/4（火）	旭小学校	鶴見区	SDGs 委員会	22
8	10/24（月）	神大寺小学校	神奈川区	5 年	38
9	10/26（水）	三ツ沢小学校	神奈川区	6 年	31
10	10/28（金）	東品濃小学校	戸塚区	6 年	28
11	11/7（月）	日野南小学校	港南区	4 年	25
12	11/18（金）	南台小学校	港南区	6 年	37
13	5/18（木）	倉田小学校	戸塚区	4 年	23
14	6/12（月）	下田小学校	青葉区	4 年	116

〇松村正治

・12/7（水）「あすもりフォーラム 2022～北海道の森と暮らしをつなぐ」講演

・12/13（火）関東学院大学人間共生学部「神奈川学」講義

〇吉武美保子

・2/8（水）令和 4 年度里地里山サミットコーディネーター（神奈川県農地課）

	プロジェクト	第11期 2010.7-2011.6	第12期 2011.7-2012.6	第13期 2012.7-2013.6	第14期 2013.7-2014.6	第15期 2014.7-2015.6	第16期 2015.7-2016.6	第17期 2016.7-2017.6	第18期 2017.7-2018.6	第19期 2018.7-2019.6	第20期 2019.7-2020.6	第21期 2020.7-2021.7	第22期 2021.7-2022.7	第23期 2022.7-2023.8	備考
ヤマ	NORAの山仕事	245	209	231	223	290	296	315	288	391	347	433	468	352	2015.7-やま守り編も
	竹を活かす山仕事	5	21	26	36	67	84	94	99	124	65	80	86	88	2011.4-
	よこはま里山レンジャーズ			182	153	96	169	81	48	63	75	66	79	68	
	里山保全を安全で楽しく							40	40	49	125	163	181	158	2019.9-モリダス共催
	里山資源の活用											51	19	83	2021.5-
	里山でシゴトづくり						129	98	177	165	41	28	0	0	
ノラ	休耕地再生で農体験	67	241	237	94										2011.4-2014.3
	ヨコハマで農業体験	14	18	42	7										2011.4-2014.3
	NORAの野良仕事	11	5	1	4										-2013.12
	森と畑と音楽と				101	320	494	367	281	258	326	246	244	445	2013.11-
ムラ	神奈川野菜の食事会	273	197	195	164	103	95	38	73	62	53	18	0	0	
	もったいないから竹細工①	100	75	48	82	135	137	135	166	177	141	95	87	83	竹かご教室
	もったいないから竹細工②		27	21	42	135	160	264	253	471	462	502	707	733	竹細工工房、自主練
	筆とお香	37	6	19	7	41									旧野を描く→筆で描こう
	お話の会	24	110	42	20										旧朗読の夕べ
	『食べもの通信』読者会										32	70	63	73	2019.12-
	はまどまシアター（映画）			8	27		110	71	51	60	25	0	0	0	2013.6-
	はまどまで土間仕事				27	27	135	66	64	26	32	19	13	17	2014.2-
	はぶすぱラボ											75	58	41	2021.12-
	はまどま諸々（会員）					24	130	118	61	47	61	12	6	3	旧NORAの部活、手習い塾
	はまどま諸々（非会員）								75	131	21	0	0	0	
	NORAサロン・ライブ				51	69	38	0	70	48	56	55	0	0	2013.12復活
	はまどまオープン										162				2019.8-
	はまどまPJ計	434	415	333	420	534	805	692	813	1,022	1,045	846	934	950	
イキモノ	旬の里山探訪	60	29	106	148	198	167	176	184	191	127	105			外部スタッフ除く
	トンボとり大作戦							146	127	154	167	225	407	525	前期6月分を含む
	Green Gift							79	101	84	51	0	41	0	外部スタッフ除く
ハレ	竹細工ワークショップ								68	68					
	特別なハレ		125		54			23	15			27			
	合計	836	1,063	1,158	1,240	1,505	2,144	2,111	2,241	2,569	2,369	2,270	2,459	2,669	
			10周年		TPP			里山ｶﾞｰﾃﾞﾝ	里山ｶﾞｰﾃﾞﾝ			二十歳祝			
	サイト訪問者数	1,686	1,732	2,271	2,650	2,762	2,770	3,342	4,707	3,511	3,727	4,259	4,751	4,523	
	サイト閲覧頁数	6,260	5,655	7,316	7,371	7,297	9,113	9,507	12,027	11,199	10,690	12,465	13,201	11,380	
	直帰率	53.20	57.57	57.83	63.64	65.70	60.49	64.46	67.45	67.66	70.27	69.67	71.20	74.61	（単位: %）

第２号議案　第23期決算報告（2022年7月～2023年6月）

活　動　計　算　書

特定非営利活動法人　よこはま里山研究所　　[税込]（単位：円）

自 2022年 7月 1日 至　2023年 6月30日

【経常収益】			
【受取会費】			
一般会員受取会費	463,000		
運営会員受取会費	156,000		
賛助会員受取会費	0	619,000	
【受取寄付金】			
受取寄付金	965,014	965,014	
【受取助成金等】			
受 取 助 成 金	1,693,208	1,693,208	
【事業収益】			
自主事業収入	1,947,900		
受託事業収入	8,158,100		
販売事業収入	8,576	10,114,576	
【その他収益】			
受取 利息	110		
雑収入	25,600	25,710	
経常収益 計			13,417,508
【経常費用】			
【事業費】			
（人件費）			
人件費計	0		
（その他経費）			
売上原価	1,544,906		
調査費	360,000		
業務委託費	4,631,227		
諸謝金	3,775,341		
印刷製本費	402,981		
支払手数料	61,919		
修繕費	17,590		
保険料	111,876		
消耗品費	616,593		
水道光熱費	113,975		
地代家賃	942,696		
賃借料	22,000		
旅費交通費	11,980		
通信運搬費	157,833		
減価償却費	19,458		
租税公課	2,000		
その他経費計	12,792,375		
事業費 計		12,792,375	
【管理費】			
（人件費）			
人件費計	0		
（その他経費）			
業務委託費	231,000		

活　動　計　算　書

特定非営利活動法人　よこはま里山研究所　　[税込]（単位：円）

自 2022年 7月 1日 至　2023年 6月30日

印刷製本費	6,718		
支払手数料	11,132		
消耗品費	27,469		
水道光熱費	5,719		
地代家賃	47,304		
通信運搬費	38,084		
諸会費	48,900		
調査費	7,544		
その他経費計	423,870		
管理費 計		423,870	
経常費用 計			13,216,245
当期経常増減額			201,263
【経常外収益】			
経常外収益 計			0
【経常外費用】			
経常外費用 計			0
税引前当期正味財産増減額			201,263
法人税、住民税及び事業税			147,400
当期正味財産増減額			53,863
前期繰越正味財産額			15,158,912
次期繰越正味財産額			15,212,775

貸　借　対　照　表

特定非営利活動法人　よこはま里山研究所　　[税込]（単位：円）
全事業所　　2023年 6月30日 現在

資　産　の　部		負　債　の　部	
科　　目	金　額	科　　目	金　額
【流動資産】		【流動負債】	
（現金・預金）		未　払　金	70,000
小口　現金	27,000	未払法人税等	147,400
普通　預金	13,662,844	前　受　金	27,000
郵便　貯金	1,306,579	預　り　金	51,054
現金・預金 計	14,996,423	流動負債合計	295,454
（売上債権）		【固定負債】	
未　収　金	12,000	固定負債合計	0
売上債権 計	12,000	**負債合計**	**295,454**
（棚卸資産）		**正味財産の部**	
商品	0	【正味財産】	
棚卸資産 計	0	前期繰越正味財産	15,158,912
（その他流動資産）		当期正味財産増減額	53,863
前払費用	121,500	**正味財産合計**	**15,212,775**
預け金	14,215		
その他の流動資産 計	135,715		
流動資産合計	15,144,138		
【固定資産】			
（有形固定資産）			
機械装置	48,511		
有形固定資産 計	48,511		
（無形固定資産）			
電話加入権	89,880		
無形固定資産 計	89,880		
（投資その他の資産）			
敷金	225,700		
投資その他の資産 計	225,700		
固定資産合計	364,091		
資産合計	**15,508,229**	**負債及び正味財産合計**	**15,508,229**

財　産　目　録

特定非営利活動法人　よこはま里山研究所　　[税込]（単位：円）
全事業所　　2023年 6月30日 現在

《資産の部》

【流動資産】			
（現金・預金）			
小口現金	27,000		
普通　預金	13,662,844		
横浜銀行　　本部	(8,443,484)		
横浜銀行　　ヤマ	(247,193)		
横浜銀行　　島村	(3,324,318)		
横浜銀行　　吉武	(91,342)		
横浜銀行　　竹	(201,003)		
横浜銀行　　松村	(1,355,504)		
郵便　貯金	1,306,579		
ゆうちょ銀行　本部	(971,109)		
ゆうちょ銀行　どま	(324,446)		
ゆうちょ銀行　ヤマ	(11,024)		
現金・預金 計	14,996,423		
（売上債権）			
未　収　金	12,000		
横浜市環境創造局	(12,000)		
売上債権合計	12,000		
（棚卸資産）			
商　　品	0		
棚卸資産 計	0		
（その他流動資産）			
預け金	14,215		
Ｐｅｙｐａｌ	(14,215)		
前払費用	121,500		
家賃	(82,500)		
2023年度対応保険料	(36,000)		
2023年度対応会費	(3,000)		
その他の流動資産 計	135,715		
流動資産合計		15,144,138	
【固定資産】			
（有形固定資産）			
機械装置	48,511		
林業用機器	(1)		
クローラー式運搬車	(48,510)		
有形固定資産 計	48,511		
（無形固定資産）			
電話加入権	89,880		
日本電信電話㈱	(89,880)		
無形固定資産 計	89,880		
（投資その他の資産）			
敷金	225,700		
大和ビルディング㈱	(225,700)		
投資その他の資産 計	225,700		
固定資産 計		364,091	
資産合計			15,508,229

《負債の部》

財　産　目　録

特定非営利活動法人　よこはま里山研究所　　[税込]（単位：円）
全事業所　　2023年 6月30日 現在

【流動負債】			
未払金	70,000		
はまどまコーディネーター費用R5.6	(60,000)		
森づくりフォーラム会費	(10,000)		
未払法人税等	147,400		
法人税	(54,000)		
法人県民税	(20,400)		
法人事業税	(15,600)		
法人市民税	(57,400)		
前受金	27,000		
24期会費	(27,000)		
預り金	51,054		
源泉税	(51,054)		
流動負債合計		295,454	
負債合計			295,454
正味財産			15,212,775

財務諸表の注記

特定非営利活動法人　よこはま里山研究所

2023年 6月30日 現在

【重要な会計方針】

財務諸表の作成は、ＮＰＯ法人会計基準（2010年７月20日　2017年12月12日最終改正　ＮＰＯ法人会計基準協議会）によっています。

(1).固定資産の減価償却の方法

有形固定資産：定率法

無形固定資産：定額法

(2).消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっています。

【事業費の内訳】

事業費の区分は別紙の通りです。

【使途等が制約された寄付等の内訳】

[税込]（単位：円）

内容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備考
東京ガス森里海つなぐﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ		500,000		500,000	
緑の募金		392,208	392,208	0	
県森林協議会助成金		30,000	30,000	0	
よこはま夢ファンド	700,000	670,000	700,000	670,000	はまどまコーディネーター費用
花と緑の博覧会		500,000	500,000	0	絵本カルタ助成金
横浜市植林地管理団体活動助成金		100,000	100,000	0	
三好　豊		275,000	275,000	0	はまどま寄附
合計	700,000	2,467,208	1,997,208	1,170,000	

【固定資産の増減内訳】

[税込]（単位：円）

科目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
（有形固定資産）						
林業用機器	940,245	0	0	940,245	940,244	1
クローラー式運搬車	329,400	0	0	329,400	280,890	48,510
ノートパソコン	0	119,800	0	119,800	119,800	0
（無形固定資産）						
ソフトウェア	0	190,300	0	0	190,300	0
合計	1,269,645	310,100	0	1,389,445	1,531,234	48,511

事業費の内訳

特定非営利活動法人　よこはま里山研究所　　2023年 6月30日 現在

科目	全事業所	事務局	広報	ヤマ（非収益）	ヤマ（収益）	ノラ	ムラ	受託（非収益）	受託（収益）
（受取会費）									
一般会員受取会費	0	463,000	0	0	0	0	0	0	0
運営会員受取会費	0	156,000	0	0	0	0	0	0	0
賛助会員受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取会費計	0	619,000	0	0	0	0	0	0	0
（受取寄付金）									
受取寄付金	943,000	22,014	0	156,500	0	500,000	276,500	0	10,000
受取寄付金計	943,000	22,014	0	156,500	0	500,000	276,500	0	10,000
（受取助成金等）									
受取助成金	1,193,208	0	500,000	523,208	0	0	670,000	0	0
受取助成金等計	1,193,208	0	500,000	523,208	0	0	670,000	0	0
（事業収益）									
自主事業収入	1,947,900	0	0	27,000	0	0	1,752,900	168,000	0
受託事業収入	8,158,100	0	0	0	0	0	0	0	8,158,100
販売事業収入	8,576	0	0	0	8,576	0	0	0	0
事業収益計	10,114,576	0	0	27,000	8,576	0	1,752,900	168,000	8,158,100
（その他収益）									
受取利息	12	98	0	0	0	0	4	0	8
雑収入	25,600	0	0	0	0	0	25,600	0	0
その他収益計	25,612	98	0	0	0	0	25,604	0	8
経常収益計	12,276,396	641,112	500,000	706,708	8,576	500,000	2,725,004	168,000	8,168,108
（人件費）									
人件費計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
（その他経費）									
売上原価	1,544,906	0	0	0	7,796	0	1,537,110	0	0
調査費	367,544	7,544	0	0	0	0	0	0	360,000
業務委託費	4,862,227	231,000	456,100	120,000	0	0	539,500	0	3,515,627
諸謝金	3,775,341	0	220,000	421,280	0	0	0	150,000	2,984,061
印刷製本費	409,699	6,718	336,177	0	0	0	6,885	0	59,919
支払手数料	73,051	11,132	2,268	18,685	18	1,058	7,198	796	31,896
修繕費	17,590	0	0	17,590	0	0	0	0	0
諸会費	48,900	48,900	0	0	0	0	0	0	0
保険料	111,876	0	0	87,876	0	0	24,000	0	0
消耗品費	644,062	27,469	2,992	515,323	0	0	14,779	0	83,499
水道光熱費	119,694	5,719	4,460	6,304	77	4,460	24,309	1,499	72,866
地代家賃	990,000	47,304	36,892	52,144	633	36,892	201,062	12,396	602,677
賃借料	22,000	0	0	0	0	0	0	0	22,000
旅費交通費	11,980	0	0	10,000	0	0	1,980	0	0
通信運搬費	195,917	38,084	64,082	5,236	64	3,704	20,188	1,245	63,314
減価償却費	19,458	0	0	19,458	0	0	0	0	0
租税公課	2,000	0	0	0	0	0	0	0	2,000
その他経費計	13,216,245	423,870	1,122,971	1,273,896	8,588	46,114	2,377,011	165,936	7,797,859
経常経費計	13,216,245	423,870	1,122,971	1,273,896	8,588	46,114	2,377,011	165,936	7,797,859
当期経常増減額	201,263	217,242	-622,971	-567,188	-12	453,886	347,993	2,064	370,249
経常外収益 計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経常外費用 計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
法人税、住民税及び事業税	147,400	147,400	0	0	0	0	0	0	0
当期正味財産増減額	53,863	69,842	-622,971	-567,188	-12	453,886	347,993	2,064	370,249

（千円）	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期	9期	10期	11期	12期	13期	14期	15期	16期	17期	18期	19期	20期	21期	22期	23期
当期収入合計	4,622	12,870	26,665	23,441	25,389	15,341	7,073	8,353	14,125	6,016	8,144	9,029	5,740	3,060	5,476	7,619	12,794	10,740	12,294	13,283	11,597	12,693	13,418
当期支出合計	4,069	11,959	22,184	24,567	21,946	18,672	10,380	6,946	11,174	6,633	7,953	7,644	5,261	3,601	4,984	6,702	10,669	9,256	11,912	11,987	10,273	12,431	13,364
当期収支差額	552	911	4,481	-1,126	3,443	-3,331	-3,307	1,408	2,950	-617	191	1,385	480	-542	492	916	2,125	1,483	382	1,296	1,324	262	54
前期繰越収支差額	0	552	1,464	5,945	4,819	8,262	4,932	1,624	3,032	5,983	5,366	5,557	6,942	7,422	6,880	7,372	8,288	10,413	11,896	12,278	13,574	14,897	15,159
次期繰越収支差額	552	1,464	5,945	4,819	8,262	4,932	1,624	3,032	5,983	5,366	5,557	6,942	7,422	6,880	7,372	8,288	10,413	11,896	12,278	13,574	14,897	15,159	15,213
（人）																							
自主事業参加者数											836	1,063	1,158	1,240	1,505	2,144	2,111	2,241	2,569	2,369	2,270	2,459	2,669

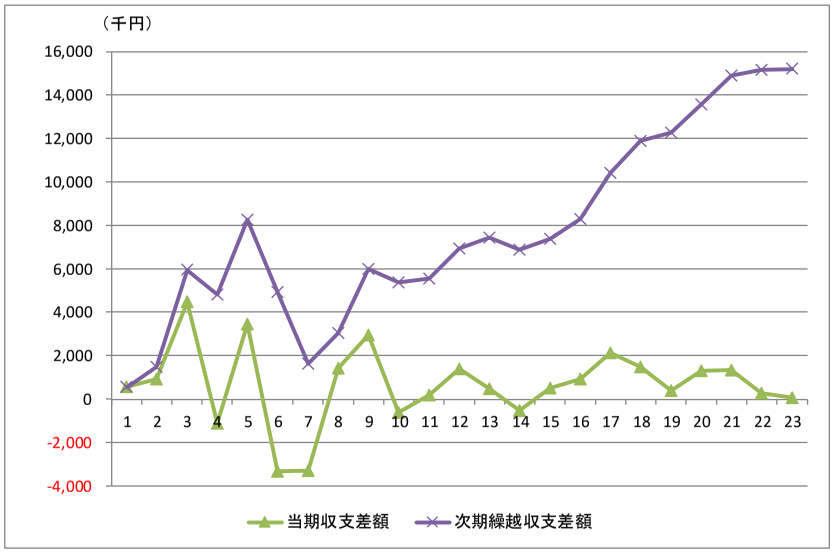


図　当期収支差額および次期繰越収支差額の推移

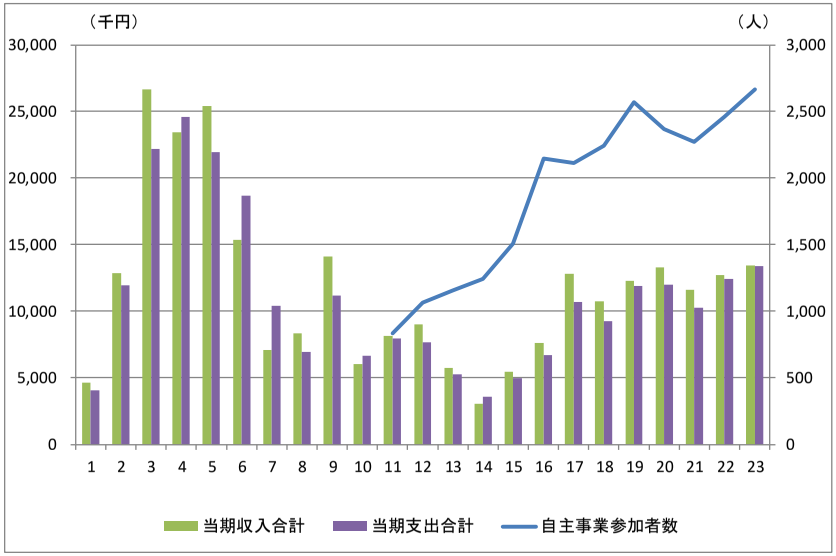


図　当期収入合計および当期支出合計の推移

※1～9期の事業期間は1月～12月、11期以降の事業期間は7月～翌年6月
10期の事業期間は2010年1月～6月の6か月間

第３号議案　第 24 期事業計画（2023 年 7 月～2024 年 6 月）

今日、樹林地・農地・地域コミュニティ・伝統文化などの担い手不足、雑木林におけるナラ枯れ被害の拡大、子どもたちの体験の貧困や格差など、里山にかかわる環境課題・社会課題は山積している。これらの課題は、定款上の目的に掲げている「地域ごとに個性ある持続可能なコミュニティづくり」を進めていくとき、おのずと解決していくであろう。環境保全、教育・福祉、貧困・格差、まちづくりなど、多様なテーマと関連させつつ、広い視野を持って活動を展開することが求められる。

しかし、NORA の運営メンバーは固定化・高齢化してきており、内部の人材養成や他団体との協働・連携を計画的に進めていく必要がある。そのプロセスにおいて重視すべきは対話であり、他者との対話、自然との対話、自分との対話などを含む。話したいことを一方的に話すのではなく、聞くために耳をすませることを意識したい。

第 24 期は、下記 4 つの重点方針を掲げつつ、定例の自主活動（ヤマ・ノラ・ムラ・ハレ・イキモノ）をすすめることで、「根を持つことと翼をもつこと」を両立させていく。

①コーディネーターを中心とした「はまどま」活用の推進【ムラ】

「はまどま」が「街なかの里山の入り口」として活用しやすくなるように、コーディネーターが中心になって環境づくりやルールづくりを進めるほか、新しい参加者・担い手を増やすために、ニーズ調査、企画支援・コーディネート、情報発信に力を入れる。今期中に「はまどま」のホームページを立ち上げ、「はまどま」利用に興味のある潜在層に積極的に働きかけ、ニーズを把握しながら新規の企画・プロジェクトの立ち上げを支援していく。

②都市近郊における里山保全モデルづくり【ヤマ】

今期中に川井緑地において保全管理計画を見直し、森づくり活動に生態系管理の視点を明確に位置づける。また、グリーンウッドワークの普及にも努めながら、里山生態系の保全、発生材の有効利用、山仕事の担い手育成の点において、都市近郊における里山保全のモデルとなることを目ざす。

③交流人口の増加による里山環境の再生モデルづくり【ノラ】

ノラ事業では、今日、深刻な社会問題となっている地域の里山・コミュニティの担い手不足に対して、「森と畑と音楽と」と「城山の里山サポーター」事業を通して、地域外からの支援、企業・学校等の参加などによって、里山環境を再生するモデルづくりをすすめる。

④新規事業の立ち上げと活動成果の発信を支援する助成制度の設計

新規事業の立ち上げや他団体との新たな協働・連携を促進するために、そうしたスタートアップを支援する制度を検討し、今期内に助成を開始する。また、これまで取り組んできた活動成果の情報発信を支援する制度についても、あわせて検討して助成を開始する。

自主事業

１．ヤマ事業

１）NORA の山仕事　{別紙計画書のとおり}

２）竹を活かす山仕事　{別紙計画書のとおり}

３）よこはま里山レンジャーズ（連携：認定 NPO 法人自然環境復元協会）　{別紙計画書のとおり}

４）都市の里山の活用推進（令和 5 年度「緑の募金」公募事業）　{別紙計画書のとおり}

５）山道具の安全使用（連携：株式会社シンコー）　{別紙計画書のとおり}

６）まちの近くで里山をいかすシゴトづくり

「里山とかかわる暮らし」と「里山をいかす仕事」の両立を求め、環境 NPO 運営スタッフ懇談会を定期開催し、バックオフィスの効率化とともに事業協同組合の可能性を探る。

７）安全で楽しい森林づくり活動を指導できるリーダー養成事業

（主催：モリダス、令和 5 年度「緑と水の森林ファンド」）

モリダス主催事業と共催するかたちで人材育成事業を実施し、安全で楽しい里山保全・森林づくり活動を指導できる現場リーダーを養成するほか、横浜・多摩地域の活動団体のネットワークを強化する。

２．ノラ事業

１）森と畑と音楽と　{別紙計画書のとおり}

２）城山里山サポーター（東京ガス「森里海をつなぐプロジェクト」）

地域の里山を守る人手が足りないときに気軽にお手伝いに行ける関係づくりのために、地域住民と一緒に里山を守るサポーターを募集し、自主的な活動も促しながら地域外との協働による里山再生のモデルづくりを進めていく。

３．ムラ事業

１）はまどまプロジェクト

(1) NORA 野菜市　{別紙計画書のとおり}

(2) もったいないから竹細工　{別紙計画書のとおり}

(3) はぶすぱラボ　{別紙計画書のとおり}

(4) はまどまで土間仕事　{別紙計画書のとおり}

(5) 『食べもの通信』読者会　{別紙計画書のとおり}

(6) はまどま諸々　{別紙計画書のとおり}

・心も体も元気に季節の薬膳食事会

２）地域連携・ネットワーク

南区役所、宮宿花 1・2 丁目町内会、蒔田公園愛護会、フォーラム南太田、睦地域ケアプラザなど、蒔田地区周辺の公共機関・団体との連携を深める。また、横浜コミュニティカフェネットワークの一員として、ネットワーク活動に協力する。

４．ハレ事業

20 周年記念事業として残っている「もったいないから竹細工」のプロジェクト紹介動画を制作する。また、新規プロジェクトの立ち上げを促し、25 周年記念事業へと繋げる。

５．イキモノ事業

１）トンボはどこまで飛ぶかフォーラム

フォーラムの一員として森里川海と連携し、生物多様性保全に繋がる活動を実施する。

６．広報事業

１）ウェブサイト更新・メールマガジン配信・SNS による情報発信

ウェブサイトと連携しながら、定期的に「里山と暮らしをつなぐメールマガジン」を配信して、効果的に情報を発信する。また、SNS を利用して柔軟かつ迅速な情報発信に努め、特にストーリーやショート動画など、動きのある素材を有効に活用していく。

２）活動報告書の作成

2023 年の活動報告書を作成し、年末に年会費の依頼とともに会員に送付する。

協働・受託事業

適宜、社会のニーズに応じて協働・受託事業を進める。また、ボランティア体験、インターンシップの受入は、可能な限り引き受ける。

・森づくりボランティア体験事業業務（横浜市環境創造局みどりアップ推進課）
・保育所・小中学校等ビオトープ整備等指導業務（横浜市環境創造局みどりアップ推進課）
・森づくり安全管理研修・入門講座企画実施業務（横浜市環境創造局環境活動支援センター）
・里地里山入門講座企画実施業務（横浜市環境創造局農政推進課）
・長浜公園トンボ池管理等業務（横浜市緑の協会）
・根岸森林公園トンボ等調査（横浜市緑の協会）
・野島公園ビオトープ環境改善業務（横浜市緑の協会）
・トンボとり大作戦開催業務（横浜植木、横浜市緑の協会）

委員・講師派遣

行政・NPO・大学等からの求めに応じて、里山保全や市民活動等に関する委員・講師を派遣する。

■NORA 第 24 期プロジェクト計画書(2023 年 7 月～2024 年 6 月)

プロジェクト名	NORA の山仕事		
カテゴリー	ヤマ		
リーダー	下山康博		
スタッフ(リーダーを除く)	中林博志、島村雅英		
目的 (箇条書きで記入)	・「利用する・繋ぐ森」をコンセプトにして、手入れによって豊かな森をつくる ・森の恵みを様々なかたちで利用して、森とかかわる暮らしを横浜で実践する		
目標 (今期の具体的な目標を箇条書きで記入)	・ステップアップ研修へ、4 期生の誘致 ・資材管理の徹底 ・ウッドワークショップ定期開催実施への準備 ・次世代へ繋ぐ森づくりへの環境整備		
内容	常緑樹の除伐や下草刈、落葉樹苗の育苗から定植など、豊かな森づくりを目標に作業を行っている。除伐した材を有効活用するために、丸太を製材しスツールなどの木工品を製作したり、薪などにも利用したりしている。		
日時	定例:第 2・第 4 日曜日　やま守り編:不定期　　実施時間 10:00～16:00		
場所	旭区下川井町　特別緑地保全地区		
年間スケジュール (単発のイベントの場合は実施日のスケジュール)	9:30　作業リーダー集合　ミーティングをおこない作業内容などを確認 10:00　一般参加者集合　作業リーダーの指示に従い、使用する道具の準備 10:30　現場にて作業開始 12:00　昼食 13:00　作業開始 15:00　作業終了　道具の整備、活動の振り返りと予定を確認 16:00　解散		
一般募集の有無	有：定員未定（NORA メルマガ・HP などの広報媒体で一般募集）		
参加費の有無	有:グリーンボランティア保険加入料として　@500 円		
収入見込額(a) (項目ごとに金額を記すほか、合計も記入)	参加費・寄付金収入	200,000 円	新治機械除草委託費
	資材販売収入	30,000 円	
	県森林協会支援金	30,000 円	
	緑の募金	650,000 円	
	合　計	910,000 円	
支出見込額(b) (項目ごとに金額を記すほか、合計も記入)	グリーンボランティア保険	120,000 円	(@6,000 円×20 回程度)
	委託費	120,000 円	(1 万円×12 か月)
	消耗品費	70,000 円	(燃料・工具修理等)
	資材費	40,000 円	
	ウッドワーク経費	560,000 円	
	合　計	910,000 円	
収支見込額(a-b)	0		
備考(他団体との連携等を適当に記入)			
作成年月日	2022 年 8 月 7 日	作成者名	下山康博

■NORA 第 24 期プロジェクト計画書(2023 年 7 月～2024 年 6 月)

プロジェクト名	竹を活かす山仕事		
カテゴリー	ヤマ		
リーダー	下山康博		
スタッフ(リーダーを除く)	三宅健也		
目的 (箇条書きで記入)	・畑や水源林である山々を侵食する竹林の手入れを行なう ・竹林整備を行なうことで、恵みある里山の生態系を維持する ・整備活動によって排出された竹材を有効活用する		
目標 (今期の具体的な目標を箇条書きで記入)	・事業への継続的な参加者を募ると共に、運営を担えるスタッフを募る ・民有地の竹林整備を継続する ・良質な材を生産できる竹林を目標とし、整備を行う ・横浜市内で生産性を望める竹林を探す		
内容	南足柄郡中井町にある竹林において、竹の間伐作業を行う。 切り出した竹は、竹かごを編む為の竹ひご作りに用いたり、カトラリーを製作する材料として活用する。 ※8 月 9 月の間は、中井町での伐り出し作業は無し(7 月も検討中)		
日時	毎月第 3 日曜日　10:00～15:00		
場所	南足柄郡中井町		
年間スケジュール (単発のイベントの場合は実施日のスケジュール)	9:00　京浜急行　上大岡駅集合(10:00　セブンイレブン中井遠藤店) 10:30　現地到着　作業開始 12:00　昼休み 13:00　作業再開 14:00　作業終了　材の積み込み 15:00　現地解散		
一般募集の有無	有：定員未定（NORA メルマガ・HP などの広報媒体で一般募集）		
参加費の有無	有:@500 円(中井集合)・1,000 円(上大岡集合)		
収入見込額(a) (項目ごとに金額を記すほか、合計も記入)	参加費　@500×4 人×10 回＝20,000 円 @1,000 円×4 人×10 回＝40,000 円 収入計　60,000 円		
支出見込額(b) (項目ごとに金額を記すほか、合計も記入)	交通費　22,600 円(@2,260×10 回) 燃料費　17,000 円(@1,700×10 回) 消耗品費　20,400 円 支出計　60,000 円		
収支見込額(a-b)	0		
備考(他団体との連携等を適当に記入)			
作成年月日	2023 年 8 月 10 日	作成者名	下山康博

■NORA 第 24 期プロジェクト計画書(2023 年 7 月～2024 年 6 月)

プロジェクト名	よこはま里山レンジャーズ		
カテゴリー	ヤマ		
リーダー	島村雅英		
スタッフ (リーダーを除く)	よこはま里山レンジャーズプロジェクトメンバー(松村、下山、吉武、中林)		
目的 (箇条書きで記入)	・里山保全活動に新たなメンバーが加わり、環境活動団体の活性化を支援が図られる。 ・レンジャーズ活動が推進される。		
目標	・レンジャーズを延べ 10 回、里山等保全活動に派遣する。 ・活動をとおして運営スタッフやレンジャーズリーダーとなりうる人材を育成する。		
内容	・レンジャーズ受け入れ団体となる環境活動団体と活動内容、日程の調整をおこない、レンジャーズ隊員を派遣する。 ・レンジャーズリーダーを育成する。 ・指定管理者などからの活動資金提供を模索する。 ・森づくりボランティア体験事業(横浜市)の参加案内をレンジャーズに発信する。		
日時	・レンジャーズ派遣:年間スケジュールのとおり (月 1 回程度) ・森づくりボランティア体験事業の案内発信:6 回		
場所	レンジャーズ派遣先:受け入れ団体活動場所(年間スケジュール参照)		
年間スケジュール	10/28 (土) 瀬上市民の森 瀬上さとやまもりの会 ヤマアガエルが産卵する湿地の草刈り 11/5 (日) 恩田の谷戸 恩田の谷戸ファンクラブ 収穫祭、脱穀・籾すり 11/23(祝) 谷矢部池公園 わかぎの会 樹林地整備 12/3(日) 桜ヶ丘緑地 桜ヶ丘・水辺のある森再生プロジェクト 里山保全 2/11(日) 瀬上市民の森 瀬上さとやまもりの会 樹林地の除伐、間伐 活動調整 5 月 川井緑地 よこはま里山研究所 里山保全 6 月 元町公園プール 横浜にとんぼを育てる会 トンボのヤゴ救出		
一般募集の有無	レンジャー登録を原則、1回あたり 10～20 人 レンジャーズ登録はメルマガ・HP、自然環境復元協会からの呼びかけ		
参加費の有無	無料		
収入見込額(a)	事業収入 ＜計＞	60,000 円 60,000 円	森づくりボランティア体験事業から
支出見込額(b)	謝金 ＜計＞	60,000 円 60,000 円	@10,000 円×6 回 リーダー派遣 (交通費含む)
収支見込額(a-b)	0 円		
備考(他団体との連携等を適当に記入)	レンジャーズ名簿管理:自然環境復元協会 受け入れ団体:恩田の谷戸ファンクラブ、瀬上さとやまもりの会、桜ケ丘・水辺のある森再生プロジェクト、わかぎの会、横浜にとんぼを育てる会		
作成年月日	2023 年 8 月 7 日	作成者名	島村雅英

■NORA 第 24 期プロジェクト計画書(2023 年 7 月～2024 年 6 月)

プロジェクト名	都市の里山の活用推進 (グリーンウッドワークショップ)		
カテゴリー	ヤマ		
リーダー	島村雅英		
スタッフ (リーダーを除く)	下山康博、中林博志、小西陽二		
目的 (箇条書きで記入)	・川井緑地等の活動で産出する間伐材や生育する植物資源等を有効活用することで、持続的な里山保全及びその活動が推進される。		
目標	・里山保全活動で産出した材の有効活用を図るための技術を習得する ・ワークショップの開催により、活用方法の普及を図る。		
内容	①グリーンウッドワーク ワークショップの開催 有償のワークショップの開催 ②グリーンウッドワークショップ 自主活動 ワークショップ参加者による自主活動		
日時	ワークショップは第 4 日曜日の川井緑地定例活動日に開催。 自主活動は参加者が活動日を調整		
場所	川井緑地		
年間スケジュール	10 月～6 月 グリーンウッドワークワークショップ開催 全 8 回 9 月～6 月 グリーンウッドワーク 自主活動 不定期		
一般募集の有無	有 : 定員未定 (NORA メルマガ・HP などの広報媒体で一般募集)		
参加費の有無	ワークショップ 参加費 4000 円を予定		
収入見込額(a)	緑の募金 参加費 ＜計＞	510,000 円 160,000 円 670,000 円	@4000 円×5 人×8 回
支出見込額(b)	ワークショップチラシ作成 資機材費 講師経費(謝金、交通費) 講師交通費 その他諸経費 ＜計＞	20,000 円 200,000 円 200,000 円 100,000 円 80,000 円 600,000 円	
収支見込額(a-b)	70,000 円		
備考(他団体との連携等を適当に記入)			
作成年月日	2023 年 8 月 7 日	作成者名	島村雅英

■NORA 第 24 期プロジェクト計画書(2023 年 7 月～2024 年 6 月)

プロジェクト名	山道具の安全使用		
カテゴリー	ヤマ		
リーダー	中林博志		
スタッフ (リーダーを除く)	下山康博、島村雅英		
目的 (箇条書きで記入)	・環境に配慮し、より安全性を高めた緑地保全活動用の機材使用の啓発 ・環境と安全に配慮した機材物品類を販売・供給		
目標 (今期の具体的な目標を箇条書きで記入)	・NORA 会員、関係する森づくり団体や山仕事の参加者などへ、バッテリーチェーンソーなど環境と安全に配慮した物品類を供給する。		
内容	目標に同じ		
日時	通年		
場所	―		
年間スケジュール (単発のイベントの場合は実施日のスケジュール)	―		
一般募集の有無	なし		
参加費の有無	なし		
収入見込額(a) (項目ごとに金額を記すほか、合計も記入)	50,000 円		
支出見込額(b) (項目ごとに金額を記すほか、合計も記入)	40, 000 円		
収支見込額(a-b)	10, 000 円		
備考(他団体との連携等を適当に記入)	提携：株式会社シンコー		
作成年月日	2023 年 8 月 8 日	作成者名	中林博志

■NORA 第 24 期プロジェクト計画書(2023 年 7 月～2024 年 6 月)

プロジェクト名	森と畑と音楽と		
カテゴリー	ノラ		
リーダー	中川欅		
目的	・休耕農地を利用することで地域環境や農地を維持する。 ・参加者が一連の農作業を体験することで、作物を育て収穫する喜びを体感する。 ・常時作付けが可能なように土地を管理する。		
目標	・イベント参加者ではなく、準備運営に携わるスタッフの確保 ・マーケットやマルシェなど生産物の消費先(販路)の拡大 ・畑の効率的な利用方法の検討および実践		
内容	・農地管理(草刈り・草取り・耕耘)　・作物の育成(作付け・施肥・防虫管理・収穫) ・収穫体験の実施　・活動場所で採れた野菜を使った料理 ・林産物や伐採樹木の活用　・子ども向け環境教育の実施 ・音楽会の実施　・クラフト全般(おもに木工。電動工具も使用)		
日時	基本的に毎週日曜日 10:00～17:00 (土曜日活動になることもあり:要連絡)		
場所	厚木市七沢・伊勢原市日向		
年間スケジュール	7 月　野菜収穫　草刈り　種まき　田んぼの草刈り 8 月　夏野菜収穫　草刈り　畝作り　種まき・苗植え付け　水田草取り 9 月　草取り　苗植え付け　種まき 10 月　草刈り　草取り　収穫作業　稲刈り 12 月上旬　収穫祭 11～2 月　収穫作業　クラフト(伐採した木材等の活用) 2～3 月　耕耘・クラフト・イベント出展・こども自然体験プログラム(川遊び・昼食作り) 4 月　種まき　中旬～下旬　草刈り　耕運　施肥 5 月　苗植え付け　種まき　草刈り・畝作り　水田のための用水路清掃 4～6 月　種まき　ニンニク収穫　苗植え(サツマイモ)　草刈り 6 月　田植え (田植え体験)		
一般募集の有無	有 (定員未定)		
参加費の有無	有 (参加プログラムによる)		
収入見込額(a)	農業体験委託　60,000 円 活動参加費　80,000 円 ＜計＞　140,000 円		@500 円×160 人
支出見込額(b)	購入費　80,000 円 借地料　30,000 円 燃料代ほか　30,000 円 ＜計＞　140,000 円		種苗 30,000 円、肥料 10,000 円、資材 40,000 円 地主 3 名へのお礼 ガソリン・オイル代 20,000 円、雑費 10,000 円
収支見込額(a-b)	0 円		
備考			
作成年月日	2023 年 8 月 8 日	作成者名	中川　欅

■NORA 第 24 期プロジェクト計画書(2023 年 7 月～2024 年 6 月)

プロジェクト名	NORA 野菜市		
カテゴリー	ムラ		
リーダー	三好豊		
スタッフ (リーダーを除く)			
目的 (箇条書きで記入)	・交流できる神奈川県内の生産者を中心に、その作物の利用を広げる。 ・身近な神奈川で生産できる作物を知らせる。 ・全国の有機農業・自然農法に挑む若い生産者を知らせ支援につなげる。 ・50 年後の日本列島に暮らす人々のために、今、何が必要か、何ができるか、 多くの人々と一緒に考えて行動したい。		
目標 (今期の具体的な目標を箇条書きで記入)	三好が体調を崩し従来の野菜市の再開は望めません。新しい取り組みを多くの皆さんと構築していきたいと考えます。 交流できる生産者の農産物の提供を通して情報発信と、人々の交流の場、そして、事業継承をできる体制を目指したい。		
内容	三好の 36 年間の経験・あえて使ってこなかったノウハウに、若い世代の生産・物流の事業化した取組みにも学び、特に若い有機・自然農法生産者との関係づくりを目指したい。		
日時	再構築する中で、大和ビルともご相談させていただきたい。		
場所	再構築する中で、大和ビルともご相談させていただきたい。		
年間スケジュール (単発のイベントの場合は実施日のスケジュール)	体調の回復とも合わせ 2023 年中に一定のめどがたてられるように目指します。		
一般募集の有無			
参加費の有無			
収入見込額(a) (項目ごとに金額を記すほか、合計も記入)			
支出見込額(b) (項目ごとに金額を記すほか、合計も記入)			
収支見込額(a-b)			
備考(他団体との連携等を適当に記入)	「神奈川・緑の劇場」から、はまどま運営費として年間 30 万円の寄付は当面中止させて下さい。		
作成年月日	2023年 8 月 8 日	作成者名	三好豊

■NORA 第 24 期プロジェクト計画書(2023 年 7 月～2024 年 6 月)

プロジェクト名	もったいないから竹細工		
カテゴリー	ムラ		
リーダー	下山康博		
スタッフ (リーダーを除く)	アドバイザー:小田切一郎・小林準治・三宅健也 アシスタント:清水冨紀雄・田下泰人・中條真樹子		
目的 (箇条書きで記入)	・竹林整備で排出された竹材を有効活用する ・竹材から竹ひごを製作し、竹籠などの竹細工を作る ・竹材の価値を見出すことで、竹林整備への人員を誘う ・会員を誘致し、会費収入を増やす		
目標 (今期の具体的な目標を箇条書きで記入)	・新しいアドバイザーの育成＆増員を考える ・次世代を担うマネージャーの発掘 ・自主練習日の継続(キャンセル待ち対策)		
内容	竹かご教室:四海波かご作りのワークショップに特化し、修了後は工房作業への参加を促す 竹細工 工房:竹ひご作りの練習や竹かご製作、カトラリー作り等 WS を行う		
日時	毎月第 4 土曜日 (竹かご教室)13:00～17:00 毎月第 1 水曜・第 2 土曜・第 3 木曜・第 4 月曜(工房作業) 9:30～12:00/13:00～16:30		
場所	はまどま		
年間スケジュール (単発のイベントの場合は実施日のスケジュール)			
一般募集の有無	有 : 定員 12 名 (NORA メルマガ・HP などの広報媒体で一般募集)		
参加費の有無	有:@1,000～3,000 円		
収入見込額(a) (項目ごとに金額を記すほか、合計も記入)	参加費 216,000(竹かご教室) 1,440,000(竹細工工房) 会費収入 279,000 収入計 1,935,000	@3,000×6 人×12 回 @3,000×10 人×4 回/月×12 回 ※ 参加人数は平均値 ※ 会費収入は昨年度比	
支出見込額(b) (項目ごとに金額を記すほか、合計も記入)	はまどま使用料 165,600 はまどま家賃補填 279,000 経 費 1,490,400 支出計 1,935,000		
収支見込額(a-b)	0		
備考(他団体との連携等を適当に記入)			
作成年月日	2022 年 8 月 7 日	作成者名	下山康博

■NORA 第 24 期プロジェクト計画書(2023 年 7 月～2024 年 6 月)

プロジェクト名	はぶすぱ ラボ		
カテゴリー	ムラ		
リーダー	三浦 まきこ		
スタッフ (リーダーを除く)	勝野真美		
目的 (箇条書きで記入)	・免疫力、自然治癒力を高めるメディカルハーブ及び植物の力を利用して人の体や心をケアするフィトセラピーの「研究・学び」の場を提供する。 ・参加者が知恵や知識を持ち寄り、みんなで楽しめるコミュニティづくりを目指す。		
目標 (今期の具体的な目標を箇条書きで記入)	・活動を通じてハーブやスパイスについての知識・理解を深め、暮らしの様々な場面で幅広く役立てる。		
内容	はまどまにてハーブ・スパイス研究会を開催している。 参加者が為になる情報を共有し、互いのスキルアップを図っている。		
日時	活動日時: 日曜日　10:00～12:00 (但し 冬季・GW はお休み)		
場所	はまどま		
年間スケジュール	2023/7/23、8/27、9/24、10/29、11/26、2023/2/25、3/24、4/28、6/23		
一般募集の有無	有 (定員未定)		
参加費の有無	有(参加プログラムによる)		
収入見込額(a)	参加費 ＜計＞	126,000 円	@3,500 円×4 人×9 回
支出見込額(b)	はまどま運営費 業務委託費 ＜計＞	18,000 円 108,000 円 126,000 円	
収支見込額 (a-b)	0 円		
備考(他団体との連携等を適当に記入)			
作成年月日	2023 年 8 月 6 日	作成者名	三浦 まきこ

■NORA 第 24 期プロジェクト計画書(2023 年 7 月～2024 年 6 月)

プロジェクト名	はまどまで土間仕事		
カテゴリー	ムラ		
リーダー	矢野真美		
目的	自分の手から生まれるものはすべて美味しい。自分で選んで、自分で手を入れて、自分の心を全力で込めて作り出すもののすばらしさを、みんなで味わう場。		
目標	・四季が美味しくしてくれるものを全力で見つけて、共有する。 ・美味しいものを自分で作る喜びを知る。手間とは食いしん坊が大好きな「愛」。その手間すらも、美味しいを体感するために積極的にやっていく。美味しいと、幸せになれるという感覚を体感する。		
内容	神奈川産の素材を積極的に使って、普段の生活にガチに取り入れられるエッセンスを惜しげもなく伝えます。		
日時	季節ごとのタイミングで、2～3 か月に1度を予定。		
場所	はまどま		
年間スケジュール	10 月から開催予定		
一般募集の有無	有		
参加費の有無	有		
収入見込額(a)	参加費 ＜計＞	105,000 円 105,000 円	@3,500 円×5×6 回 (3,000～5,000 円)
支出見込額(b)	消耗品費 はまどま運営費 ＜計＞	84,000 円 21,000 円 105,000 円	@500 円×7×6 回
収支見込額(a-b)	0 円		
備考			
作成年月日	2023 年 8 月 8 日	作成者名	矢野真美

■NORA 第 24 期プロジェクト計画書(2023 年 7 月～2024 年 6 月)

プロジェクト名	『食べもの通信』読者会		
カテゴリー	ムラ		
リーダー	三好豊		
スタッフ (リーダーを除く)	伊藤洋子		
目的 (箇条書きで記入)	月刊情報誌『食べもの通信』の定期購読をすすめつつ、少しずつ信頼できる新しい情報にふれ、学び合う場をつくる。		
目標 (今期の具体的な目標を箇条書きで記入)	リモート開催が定着している。「はまどま」での参加と、リモート参加を呼び掛けている。		
内容	伊藤洋子さんの zoom ホストと司会進行。最新号から参加者が気になった記事を発表し全員で感想、経験、意見などを出し合う。Zoom 流の発言の仕方、映像を使ったコミュニケーションにも慣れて、回を重ねるごとに楽しい時間となっている。		
日時	定例日・毎月第 2 月曜日 ※祝日等の場合は、参加者で相談する。		
場所	はまどまとリモート		
年間スケジュール (単発のイベントの場合は実施日のスケジュール)	順調ならば毎月開催。年間 12 回。内容によっては、特別開催も積極的に企画したい。		
一般募集の有無	有		
参加費の有無	有		
収入見込額(a) (項目ごとに金額を記すほか、合計も記入)	1回 500 円・6 回分前納 2,000 円(回数券方式) 参加費 24,000 円(6 名×4,000 円)		
支出見込額(b) (項目ごとに金額を記すほか、合計も記入)	Zoom ホスト手数料 2,000 円 はまどま運営協力費 20,000 円 事務費(資料作成コピー代・ノート代等) 2,000 円		
収支見込額(a-b)	0 円		
備考(他団体との連携等を適当に記入)	『食べもの通信』発行・家庭栄養研究会はじめ、「食べもの通信」を通してつながることができる団体。		
作成年月日	2023 年 8 月 8 日	作成者名	三好　豊

■NORA 第 24 期プロジェクト計画書(2023 年 7 月～2024 年 6 月)

プロジェクト名	からだにやさしい季節の薬膳		
カテゴリー	ムラ		
リーダー	内倉和子		
スタッフ(リーダーを除く)	矢野真美		
目的	季節に応じた食材で、一般的に手に入る身近な食材をメインに、生薬(薬効のある自然物)も少々取り入れ、家でも作れる献立を作る。応用できるメニューも紹介。		
目標	・できる限り神奈川県、神奈川県から近い地域の食材を使う。 ・一緒に学び、作り、知り、食べ、日々の生活の中から美味しく楽しく養生する知恵を身に付ける。はまどまでの調理、試食を基本に。		
内容	・内倉会員が学ぶ薬膳料理教室のメニューを基に、神奈川野菜と旬の素材を使って献立を作成、調理、試食する。		
日時	四季に応じた日曜日 10:00～14:00		
場所	はまどま		
年間スケジュール	2023 年 10 月(冬準備の薬膳深秋ごはん) 12 月(薬膳でクリスマスメニュー) 2024 年 3 月(春を祝う、薬膳春ごはん) 6 月(梅雨のだるさを吹き飛ばす薬膳雨季ごはん)		
一般募集の有無	有		
参加費の有無	3,000 円(会員 2,500 円) 未就学児対象のハーフサイズ：1,000 円 ※前売り回数券 5 回分(有効期限 1 年)：15,000 円		
収入見込額(a)	参加費 ＜計＞	60,000 円 60,000 円	@3,000 円×5×4 回
支出見込額(b)	消耗品費 はまどま運営費 ＜計＞	50,000 円 10,000 円 60,000 円	@500 円×5×4 回
収支見込額(a-b)	0 円		
備考			
作成年月日	2023 年 8 月 8 日	作成者名	矢野真美

第４号議案　第24期（2023年7月～2024年6月）予算

[収入]

科目	第22期決算額	*第23期予算*	第23期決算額	第24期予算額	備　　考
会費	466,000	*540,000*	619,000	600,000	運営会員@12,000*15+一般会員@3,000*140
寄付金	144,467	*100,000*	965,014	150,000	個人寄付
助成金	1,140,000	*1,430,000*	1,693,208	1,350,000	緑の募金650千円、よこはま夢ファンド670千円、神奈川県森林協会30千円
自主事業収入	1,735,574	*1,800,000*	1,947,900	2,100,000	竹細工1,656千円、山仕事200千円、ｸﾞﾘｰﾝｳｯﾄﾞ160千円、各事業参加費等
販売収入	58,305	*60,000*	8,576	50,000	チェーンソー関連消耗品販売
受託事業収入	9,148,150	*8,800,000*	8,158,100	8,655,000	森ボラ体験4,290千円、トンボ池管理990千円、里山入門748千円、謝礼等
雑収入	97	*10,000*	25,710	10,000	
当期収入合計（A）	12,692,593	*12,740,000*	13,417,508	12,915,000	

[支出]

	科目	第21期決算額	*第22期予算*	第22期決算額	第23期予算額	備　　考
事業人件費	給料手当	0	*0*	0	0	研究員給料
	臨時雇賃金	0	*0*	0	0	
	役員報酬	0	*0*	0	0	
	法定福利費	0	*0*	0	0	社会保険料、労災保険料
事業経費	事業仕入	1,224,069	*1,240,000*	1,544,906	1,700,000	事業仕入、販売仕入
	調査費	0	*380,000*	360,000	380,000	理事長@30,000円*12、研修会参加
	事業委託費	6,660,936	*6,500,000*	4,631,227	4,600,000	受託事業、山仕事、デザイン料、外注費
	諸謝金	1,574,290	*1,800,000*	3,775,341	3,400,000	講座講師謝礼
	印刷製本費	12,528	*20,000*	402,981	20,000	報告書印刷、コピー代
	支払手数料	44,315	*50,000*	61,919	60,000	振込手数料
	修繕費	0	*50,000*	17,590	50,000	
	保険料	144,483	*150,000*	111,876	150,000	グリーンボランティア保険、イベント保険
	消耗品費	442,756	*500,000*	616,593	450,000	山仕事道具、工具
	器具備品費	0	*120,000*	0	100,000	
	水道光熱費	89,654	*90,000*	113,975	120,000	
	地代家賃	953,408	*950,000*	942,696	950,000	家賃@82,500円*12を収入費で按分
	賃借料	37,430	*100,000*	22,000	50,000	レンタカー、チッパー、会場借上
	会議費	0	*10,000*	0	10,000	会議室料、茶代等
	旅費交通費	34,450	*30,000*	11,980	30,000	講師旅費
	通信運搬費	215,618	*180,000*	157,833	180,000	郵送料、備品送料、電話・通信、ネット使用料
	減価償却費	344,186	*30,000*	19,458	15,000	クローラー式運搬車
	広告宣伝費	0	*50,000*	0	50,000	
	租税公課	2,000	*0*	2,000	5,000	
	雑費	0	*5,000*	0	5,000	
管理費	業務委託費	238,104	*240,000*	231,000	240,000	経理・決算・納税委託
	印刷製本費	630	*10,000*	6,718	10,000	
	支払手数料	29,228	*30,000*	11,132	30,000	ネットバンキング25千円
	消耗品費	93,005	*30,000*	27,469	30,000	文具、衛生用品
	水道光熱費	3,333	*10,000*	5,719	10,000	
	地代家賃	36,592	*40,000*	47,304	40,000	
	通信運搬費	1,980	*10,000*	38,084	20,000	電話・通信、ネット使用料
	諸会費	7,969	*10,000*	48,900	20,000	町内会費、ネットワーク団体会費
	旅費交通費	15,400	*10,000*	0	10,000	
	租税公課	200	*5,000*	0	5,000	
	雑費	0	*5,000*	7,544	5,000	
経常外	固定資産除却損	0	*0*	0	0	
	前期損益修正損	150,000	*0*	0	0	
	法人税、住民税及び事業税	74,500	*74,500*	147,400	150,000	
	当期支出合計（B）	12,431,064	*12,729,500*	13,363,645	12,895,000	
	当期収支差額（A)-(B)	261,529	*10,500*	53,863	20,000	

第５号議案　役員選任

下表のとおり、理事・監事を選任する。全員再任となる。

なお、定款上、理事は 5 人以上 8 人以内、役員の任期は 2 年であり、再任は妨げない。理事長および副理事長は、理事の互選による。

理事	石田 周一	特定非営利活動法人新治里山「わ」を広げる会
理事	島村 雅英	横浜エコアップ研究所、認定 NPO 法人自然環境復元協会 理事長
理事	鈴木 美奈	graphic design 37
理事	中川 欅	中学校理科教員
理事	中林 博志	社会福祉法人あおぞら 理事長
理事	松村 正治	中ヶ谷戸オフィス、野兎舎 代表
理事	三好 豊	神奈川・緑の劇場 代表
理事	吉武 美保子	NPO 法人新治里山「わ」を広げる会 事務局長
監事	平石 真司	NPO 法人日本の竹ファンクラブ 理事長

特定非営利活動法人
よこはま里山研究所〜NORA

nora-yokohama.org

（2000年4月設立 2001年５月９日法人登記）

（2023.8.19現在）

office@nora-yokohama.org

里山とかかわる
暮らしを

総会（*ml*）

運営会員　12
一般会員 200
賛助会員　　2

理事会（*board*）

監事：平石 真司

理事長　：松村 正治
副理事長：中林 博志
理　事　：石田 周一
理　事　：鈴木 美奈
理　事　：島村 雅英
理　事　：中川 欅
理　事　：三好 豊
理　事　：吉武 美保子

運営連絡協議会（*admin*）

島村 雅英
下山 康博
鈴木 美奈
中林 博志
松原 優佳
松村 正治
三好 豊
矢野 真美
吉武 美保子

事務局

連絡窓口（松村･島村･吉武）　総務（松村）
資金調達（島村･吉武･松村）

広報

- ウェブサイト・メルマガ（鈴木美奈･松村）　↔Soreto Design
- ソーシャルメディア（松原･矢野･松村）　Facebook Twitter Instagram YouTube

ヤマ

- NORAの山仕事（下山･中林･島村）　↔旭高校　*kawai*　川井緑地［旭区］
- よこはま里山レンジャーズ（島村）　↔自然環境復元協会　(★)
- ｸﾞﾘｰﾝｳｯﾄﾞﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ（島村･下山･中林･小西）
- 里山でシゴトづくり･モリダス（松村）　↔多摩GV森木会 WoodsmanWorkshop　*satowork*　環境NPO運営スタッフ懇談会　中井町
- 竹を活かす山仕事（下山･小林･三宅）　*take*

ノラ

- 森と畑と音楽と（中川欅）　七沢［厚木市］
- 里山サポーター（松村）　↔小松コスモス会　まちやま　小松城北［相模原市］

ムラ

- はまどまプロジェクト（松原）　*hamadoma*
  - もったいないから竹細工（下山･小田切･小林･三宅）
  - NORA野菜市（三好）　大和ビル　フォーラム南太田　睦地域ケアプラザ　蒔田地区社協　宮宿花1･2丁目町内会　大岡川アートプロジェクト　↕　はまどま［南区］
  - 神奈川野菜の食事会（三好･矢野）
  - はぶすぱラボ（三浦）
  - はまどまで土間仕事（矢野･三好）　↔糀屋川口
  - 『食べもの通信』読者会（三好）　↔食べもの通信社　みどりのほんや
  - NORAサロン･はまどま諸々　↔郷土映像ラボラトリー　粕谷恵　山本美香　内倉和子
- ネットワーク（勝野･島村）　↔横浜コミュニティカフェネットワーク

ハレ

- 20周年記念事業
  - プロジェクト動画（鈴木美奈）

イキモノ

- トンボ調査･トンボとり大作戦（島村）　↔トンボはどこまで飛ぶかフォーラム　京浜臨海部［鶴見･神奈川区ほか］

協働･受託

- 山道具の安全使用（下山･中林）　↔シンコー
- 体験プログラム企画運営（下山･島村）　←横浜市　横浜市緑の協会　横浜植木　東京ガス　日本フィランソロピー協会
- 調査研究･コンサルティング（吉武･島村）　←横浜市　横浜市緑の協会 ほか
- 委員･講師派遣／執筆（吉武･松村･島村）　←神奈川県　横浜市　国土緑化推進機構　森づくりフォーラム　EIC

地方支部 海外事業部

佐渡支部（十文字）大崎支部（鈴木慈子）
高野支部（山田）美杉支部（Choji）
イタリア事業部（川嶋）

NORA人の仕事

まさみ ふぁくとりぃ（勝野）37（鈴木美奈）
横浜エコアップ研究所（島村）山惣（下山）
神奈川･緑の劇場（三好）中ヶ谷戸オフィス（松村）

NORAの仲間たち

森のライフスタイル研究所　LifeLabTama
はやし農園　森ノオト　日本の竹ファンクラブ
よこはまかわを考える会　山崎･谷戸の会
里山倶楽部　日本環境保全ボランティアネットワーク

よこはま里山レンジャーズ協力団体（★）

恩田の谷戸ファンクラブ［青葉区］
新治里山「わ」を広げる会［緑区］
桜ヶ丘･水辺のある森再生PJ［保土ヶ谷区］
わかぎの会、谷矢部池公園愛護会［戸塚区］
瀬上さとやまもりの会［栄区］
横浜にとんぼを育てる会［中区］

里山コネクトin多摩・神奈川 satoyama-connect.info　↔a-con
城山コネクトin神奈川相模原 shiroyama-connect.info　↔神奈川県 相模原市 「小松･城北」里山をまもる会